

講義実施要綱

松村看護専門学校

目 次

	科 目	ページ
基礎分野	論 理 学	2
	情 報 科 学	3
	看 護 情 報 学	4
	物 理 学	5
	思 考 の 基 礎	6
	心 理 学	7
	人 間 関 係 論	8
	教 育 学	9
	社 会 学	10
	哲 学 I	11
	哲 学 II	12
	英 語	13
	体 育	14
	生 活 と 文 化	15

	科 目	ページ
専門基礎分野	形 態 機 能 総 論	17
	疾 病 総 論	18
	形 態 機 能 疾 病 論 I	19~20
	形 態 機 能 疾 病 論 II	21~22
	形 態 機 能 疾 病 論 III	23~24
	形 態 機 能 疾 病 論 IV	25~26
	形 態 機 能 疾 病 論 V	27
	形 態 機 能 疾 病 論 VI	28~29
	形 態 機 能 疾 病 論 VII	30
	形 態 機 能 演 習 I	31
	形 態 機 能 演 習 II	32
	診 断 治 療 論 I	33
	診 断 治 療 論 II	34~35
	微 生 物 学	36
	生 化 学	37
	栄 養 学	38
	薬 理 学	39~40
	公 衆 衛 生 I	41~42
	公 衆 衛 生 II	43~44
	社 会 福 祉 I	45
	社 会 福 祉 II	46
	保 健 医 療 論	47
	看 護 と 法 律	48

	科 目	ページ
専門分野	基 礎 看 護 学 概 論	50~51
	基 礎 看 護 学 援 助 論 I	52
	基 礎 看 護 学 援 助 論 II	53
	基 礎 看 護 学 援 助 論 III	54
	基 礎 看 護 学 援 助 論 IV	55
	基 礎 看 護 学 援 助 論 V	56
	基 礎 看 護 学 援 助 論 VI	57
	基 礎 看 護 学 援 助 論 VII	58
	基 礎 看 護 学 援 助 論 VIII	59
	基 礎 看 護 学 援 助 論 IX	60
	基 礎 看 護 学 演 習 I	61
	基 礎 看 護 学 演 習 II	62
	地 域・在 宅 看 護 概 論 I	63
	地 域・在 宅 看 護 概 論 II	64
	地 域・在 宅 看 護 援 助 論 I	65~66
	地 域・在 宅 看 護 援 助 論 II	67
	地 域・在 宅 看 護 援 助 論 III	68
	地 域・在 宅 看 護 援 助 論 IV	69
	地 域・在 宅 看 護 論 演 習	70
	成 人 看 護 学 概 論 I	71
	成 人 看 護 学 概 論 II	72~73
	成 人 看 護 学 援 助 論 I	74~75
	成 人 看 護 学 援 助 論 II	76~77
	成 人 看 護 学 援 助 論 III	78~79
	成 人 看 護 学 援 助 論 IV	80~81
	成 人 看 護 学 援 助 論 V	82
	成 人 看 護 学 援 助 論 VI	83
	老 年 看 護 学 概 論	84
	老 年 看 護 学 援 助 論 I	85
	老 年 看 護 学 援 助 論 II	86~88
	老 年 看 護 学 援 助 論 III	89
	小 児 看 護 学 概 論	90
	小 児 看 護 学 援 助 論 I	91
	小 児 看 護 学 援 助 論 II	92
	小 児 看 護 学 援 助 論 III	93
	母 性 看 護 学 概 論	94
	母 性 看 護 学 援 助 論 I	95
	母 性 看 護 学 援 助 論 II	96
	母 性 看 護 学 援 助 論 III	97
	精 神 看 護 学 概 論	98
	精 神 看 護 学 援 助 論 I	99
	精 神 看 護 学 援 助 論 II	100~101
	精 神 看 護 学 援 助 論 III	102
	看 護 総 合 I	103
	看 護 総 合 II	104
	看 護 総 合 III	105
	看 護 総 合 IV	106
	看 護 総 合 V	107
	看 護 総 合 VI	108

※ 学生の皆さんへ

この資料は、授業の予習・復習に活用し、自己学習に役立ててください。

<教育理念>

本校は、設置母体である公益財団法人磐城済世会の使命を基盤として地域に根ざし、地域に貢献できる看護師を育成する。

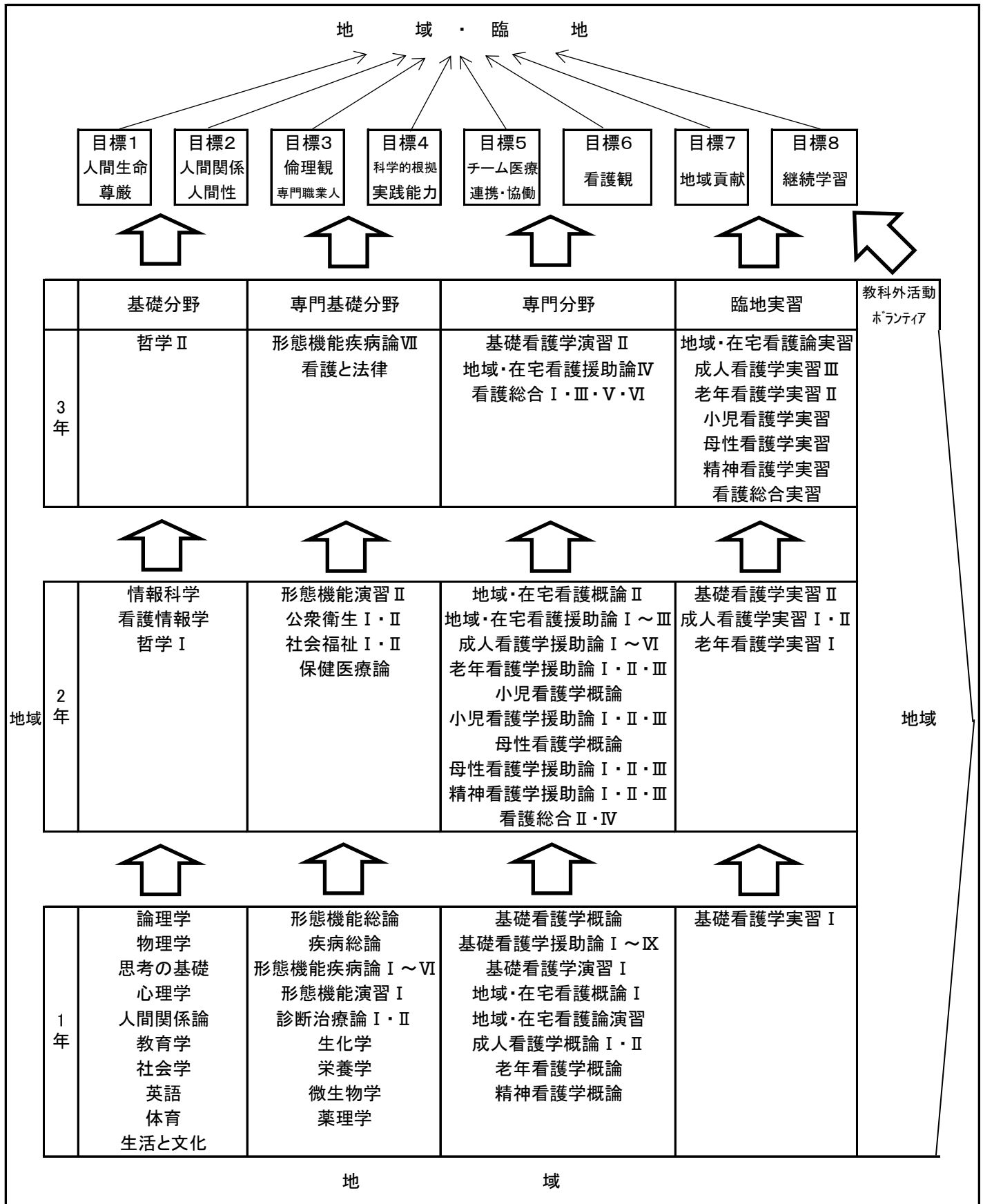
<教育目的>

生命の尊厳を尊重する豊かな人間性を育み、倫理観を備えた看護の専門職に必要な知識・技術・態度を修得させ、地域のニーズに貢献できる看護師の育成を目的とする。

<教育目標>

1. 人間の生命の尊厳を尊重し、統合された存在として幅広く理解する能力を養う。
2. よりよい人間関係を築く能力を育み、あらゆる人に対応できる豊かな人間性を養う。
3. 倫理観を備えた専門職業人としての責任ある行動がとれる能力を養う。
4. あらゆる健康状態にある人々へ科学的根拠に基づいた臨床判断を行い、さらに看護実践できる基礎的能力を養う。
5. 保健医療福祉チームにおける看護の役割を認識し、多職種と連携、協働できる基礎的能力を養う。
6. 看護の本質を理解し、自己の看護観を培う。
7. 地域の特徴および暮らす人々を理解し、地域に貢献できる能力を養う。
8. 専門職業人として自ら学び続ける能力を養う。

<カリキュラムマップ>



<カリキュラムマップの考え方>

当校の教育理念は「地域に根ざし」が基盤となっているため、学校が地域の中に存在する。また、卒業後はさまざまな地域の臨地で看護師として貢献するため、地域・臨地に向けて積み上げて学習していくものとする。

基礎分野は、専門基礎分野、専門分野の基礎として位置づけ、幅広いものの見方、考え方、人間理解ができ、情報通信技術 (ICT) を活用できる人間性豊かな専門職業人を育成するための科目として設定した。

専門基礎分野は、看護を学ぶ上で基礎となる教育内容であり、看護が人間の生命の営みを助ける有用な役割があること、さらに看護の視点でこれらを理解し、看護援助の科学的根拠につなげ、臨床判断に活用できるように設定した。

専門分野はまず、「基礎看護学」において看護実践の土台となる看護の概念や役割、基礎看護技術、問題解決方法などを学ぶ。さらに、あらゆるライフステージ、健康レベル、健康ニーズ、さまざまな場で看護が実践できる基礎的能力を育成するため「地域・在宅看護論」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」を学ぶ。

特に、地域・在宅看護論では、対象を生活者として理解するため、1年次より基礎分野の「生活と文化」の科目と関連させ、地域の特性や人々の暮らしぶりを看護の視点で体験学習を通し学ぶ。

さらに、「看護の統合と実践」では臨地に近い学習を充実させるために模擬状況を設定し、臨床判断力や対応力を学ぶ。また事例展開を通し、地域包括ケアシステムや多職種連携を実践的に学ぶ。

臨地実習では、基礎看護学実習から知識・技術・態度を統合し積み上げ型であらゆるライフステージ・健康レベル・場で看護が実践できる基礎的能力を養う。

また、教科外活動やボランティアでは豊かな人間性を育み、専門職業人として自覚する機会ととらえ、さまざまな活動のリーダーとなる2年生は十分にその能力を培う。

すべての学習、教科外学習、ボランティアは教育目標1～8達成へ向かってさまざまな能力を獲得し、地域に貢献できる看護師を目指す。

各分野(授業に関して)の目的

基礎分野

1. 人間を理解し、豊かな人間性とよりよい人間関係をはぐくむ能力を養う。
2. 科学的根拠にもとづいたものの見方、考え方ができる。
3. 地域のニーズや情報化社会に対応できる基礎的能力を養う。

専門基礎分野

1. 人間を理解する基礎として、看護学の視点で人体の構造と機能を系統立てて理解する。
2. 看護学の視点で疾病の成り立ちやその回復の過程および回復を促進させる方法を理解する。
3. ライフステージを通して、健康や疾病・障害の状態に応じた健康支援ができるための保健医療福祉制度を理解する。

専門分野

看護の対象としての人間を理解し、看護を実践するための基礎的能力を養う。

<基礎看護学>

看護の対象を生活者として理解し、あらゆる健康レベルやライフステージに応じて、健康の保持増進・疾病予防・回復の促進に関わる援助に必要な看護の考え方や方法を学ぶ。

<地域・在宅看護論>

地域で生活する人々とその家族を理解し、地域のさまざまな場で展開される在宅看護の基礎的能力を養う。

<成人看護学>

成人期にある対象の特徴と健康の保持増進の重要性を理解し、疾病・障害をもつ対象とその家族に対する看護に必要な基礎的能力を養う。

<老年看護学>

老年期にある対象の特徴とその生活機能を理解し、加齢に応じた看護、健康障害をもつ高齢者とその家族に対する看護に必要な基礎的能力を養う。

<小児看護学>

子どもの成長・発達の特徴を理解し、さまざまな健康状態にある子どもの成長・発達を促し、子どもとその家族に対する看護に必要な基礎的能力を養う。

<母性看護学>

女性のライフステージや性と生殖について理解し、母性看護に必要な基礎的能力を養う。

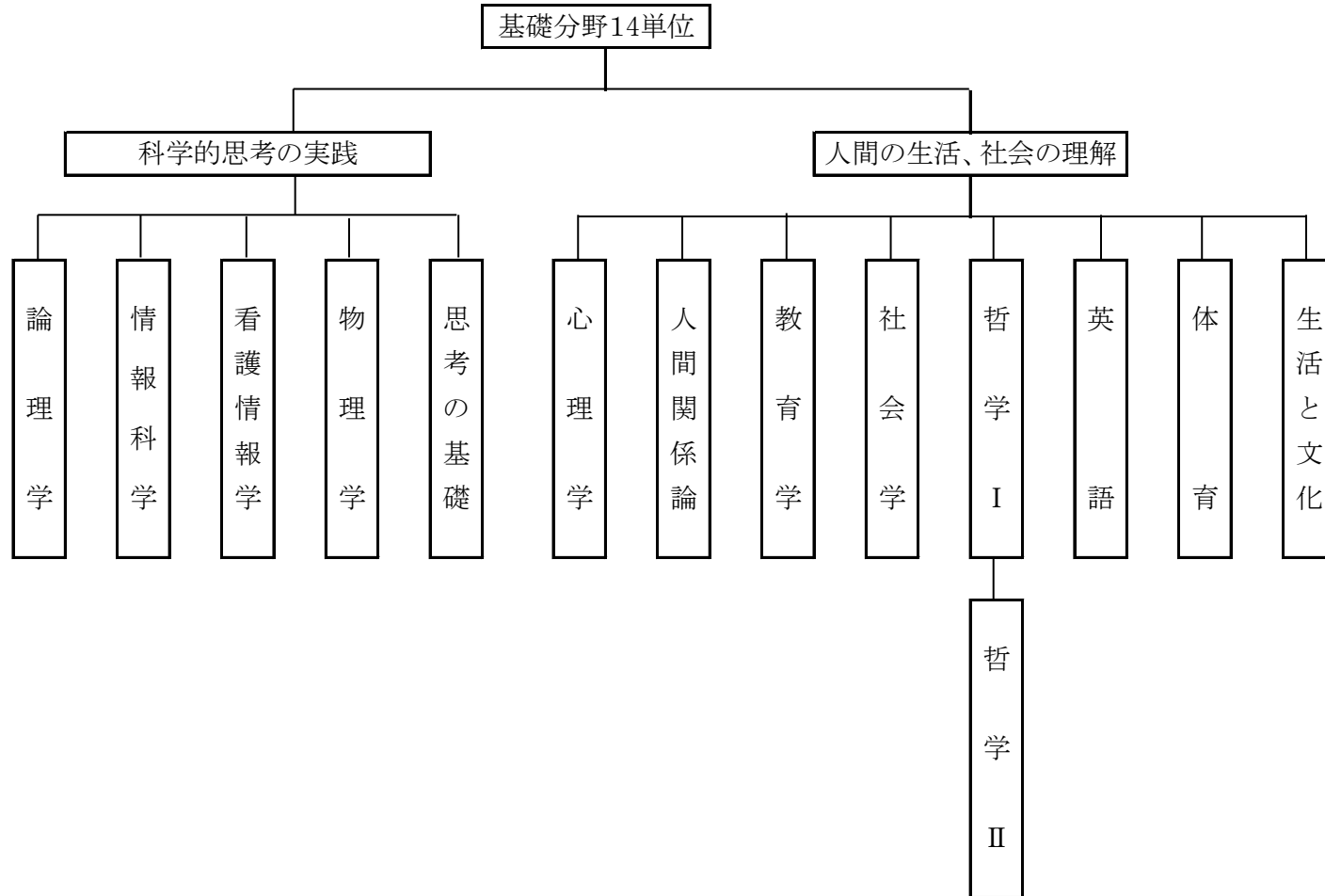
<精神看護学>

精神看護の対象を理解し、心の健康を維持増進するための支援及び心の健康に障害をもつ人とその家族に対する看護に必要な基礎的能力を養う。

<看護の統合と実践>

看護の知識と技術が統合でき、チーム医療及び多職種と協働する中で看護師としての役割を理解し、看護をマネジメントできる基礎的实践能力を養う。

基礎分野 関連図



授 業 科 目	論理学	講師名	川崎 俊郎 大岩 慎太郎		
開 講 時 期	1年次 後期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義14回 評価2回
目 標	1. 論理的思考について学び、看護に必要な判断力を身につける。				
内 容	1. 論理とは 1) 命題について 2) 真偽 3) 推論 4) 批判的思考 2. 論理的な書き方 3. 論理的な話し方				
設 定 理 由	物事を筋道立てて考え、他者の思考についても客観的に評価できる能力を身につけるために設定した。				
テ キ ス ト					
参 考 図 書					
評 価	筆記試験 100点				

授 業 科 目	情報科学	講師名	須藤 友紀 油井 貴幸 上遠野 純子(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	2年次 前期	単 位・時 間	1単位 30時間	回 数	講義4回 演習9回 評価2回
目 標	1. コンピュータの利用方法について理解する。 2. 医療における情報システムについて理解する。 3. 効果的なプレゼンテーションを体験する。				
内 容	1. 医療と情報科学 1) 情報科学の基礎 2) 情報技術とコンピュータ 3) 医療と情報システム 4) 病院情報システム 5) プレゼンテーション演習				
設 定 理 由	情報社会に対応できるよう看護に必要な情報やデータ処理の方法をコンピュータ操作により対応できるような能力を養うために設定した。				
テ キ ス ト	看護情報学(医学書院)				
参 考 図 書	統計学(医学書院)				
評 価	実技・筆記試験 100点				

授 業 科 目	看護情報学	講師名	内田 日登美(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	2年次 前期	単位・時間	1単位 15時間	回数	講義3回 演習4回 評価1回
目 標	1. 看護現場で行われている情報処理を学ぶ。				
内 容	1. 看護と情報科学 1) 看護と情報に関する倫理 2) 看護情報の基礎 3) 看護研究と情報 4) 文献検索演習				
設 定 理 由	看護情報の意義を理解し、看護研究に必要な文献検索ができる能力を養うため設定した。				
テ キ ス ト	看護情報学(医学書院)				
参 考 図 書	統計学(医学書院)				
評 価	筆記試験 100点				

授 業 科 目	物理学	講師名	北見 正伸		
開 講 時 期	1年次 前期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義15回 評価1回
目 標	1. 看護場面に必要な物理的な知識を理解する。 2. 医療機器の作動原理についての基礎的知識を理解する。				
内 容	1. 物理学の基礎 2. 身体・身体ケアに関する物理学 3. 検査・治療・処置に関する物理学				
設 定 理 由	日常生活で起こるさまざまな物事、現象を物理的に捉え物理的なものの見方・考え方を理解させ医療看護場面に活用する必要があるため設定した。				
テ キ ス ト	NEWベッドサイドを科学するー看護に生かす物理学ー(学研)				
参 考 図 書	系統看護学講座基礎1 物理学 医学書院 新体系看護学 基礎科目 物理学 メヂカルフレンド社				
評 価	筆記試験 100点				

授 業 科 目	思考の基礎	講師名	照井 佳那子 北見 正伸		
開 講 時 期	1年次 前期	単位・時間	1単位 15時間	回数	講義6回 評価2回
目 標	1. 看護を学ぶために必要な基礎的科学知識を再確認し身につける。				
内 容	1. 国語の基礎 1) 表現上の規則 2) 文章の構造 3) 論文とレポートの違い 2. 理科の基礎 1) 物質の構成 2) 物質の種類と性質 3) 物質の変化 4) 生命の連続性 3. 数学の基礎 1) 分数と少数 2) 百分率 3) 簡約 4) 分数の加減乗除 5) 希釈 6) 濃度 7) 当量				
設 定 理 由	入学者の学習レディネスに差異があるため、基礎的科学知識を確認し今後の専門基礎・専門科目の学習に生かすために設定した。				
テ キ ス ト					
参 考 図 書					
評 価	筆記試験 100点				

授 業 科 目	心理学	講師名	大平 厚(病院で臨床心理士として実務経験有)		
開 講 時 期	1年次 前期	単 位・時 間	1単位 15時間	回 数	講義7回 評価1回
目 標	1. 人間の心理や行動について学び、自己を理解し、看護の対象者としての他者を理解するための基礎を学ぶ。				
内 容	1. 人間の心理 2. 学習の心理 3. 性格 4. 集団の心理				
設 定 理 由	人間や自分についての理解を深め、看護の対象である人間に対する幅広い視点を育てるために設定した。				
テ キ ス ト	心理学(医学書院)				
参 考 図 書	心理学(メヂカルフレンド社)				
評 価	筆記試験 100点				

授 業 科 目	人間関係論	講師名	宇佐神 里美(病院で臨床心理士として実務経験有) 松本 奈緒美(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	1年次 前期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義15回 評価1回
目 標	1. 人間関係の基本的意義を学ぶ。 2. 人間関係を形成し円滑にする知識を学ぶ。 3. 他職種との人間関係の基礎を学ぶ。				
内 容	1. 人間関係 2. 社会的相互作用と社会的役割 3. コミュニケーション 1) コミュニケーションとは 2) コミュニケーションの実際 3) カウンセリングの技法 4. 保健医療チームの人間関係 5. ソーシャルサポートをめぐる人間関係 6. ノーマライゼーションをはぐくむ人間関係 7. 家族の人間関係と看護師の関わり 8. プロセスレコード 1) プロセスレコードの意義・目的 2) プロセスレコードの活用方法				
設 定 理 由	看護は人間関係を基礎として成り立つものである。人間関係とコミュニケーションを深めて看護実践に生かすために学ぶ。また、看護師は他の職種と協働するための人間関係の形成が必要であるために設定した。				
テ キ ス ト	人間関係論(医学書院)				
参 考 図 書	看護実践に活かすプロセスレコード(廣川書店)				
評 価	筆記試験 100点				

授 業 科 目	教育学	講師名	矢本 聡		
開 講 時 期	1年次 後期	単位・時間	1単位 15時間	回数	講義7回 評価1回
目 標	1. 教育の本質・方法を通して人間形成における教育の機能を理解する。 2. 患者教育についての知識を学ぶ。				
内 容	1. 人間の成長と教育の意義 2. 家庭教育 3. 生涯学習支援の社会教育 4. 学校教育 5. 教育の目的 6. 学習指導 7. 教育評価				
設 定 理 由	専門職業人として保健指導活動が求められるようになってきた。教育学の基本的知識を学び、患者教育の基礎について学ぶために設定した。				
テ キ ス ト					
参 考 図 書	教育学(医学書院), 教育学(メヂカルフレンド社)				
評 価	筆記試験 100点				

授 業 科 目	社会学	講師名	佐藤 知菜		
開 講 時 期	1年次 前期	単位・時間	1単位 15時間	回数	講義7回 評価1回
目 標	1. 看護を实践するうえでの社会を理解し、生活の基盤である社会の成立について学ぶ。				
内 容	1. 人間と社会 2. 家族 3. 地域社会 4. 職業と職業集団 5. 現代社会と現代文化 6. 社会問題				
設 定 理 由	社会的存在としての社会と人間との関わりを理解するために設定した。				
テ キ ス ト					
参 考 図 書	社会学(医学書院), 社会学(メヂカルフレンド社)				
評 価	筆記試験 100点				

授 業 科 目	哲学 I	講師名	笠井 哲		
開 講 時 期	2年次 前期	単位・時間	1単位 15時間	回数	講義7回 評価1回
目 標	1. 人間の本質と人間として生まれてきた役割を追求し、人間の価値観やものの見方を理解する。				
内 容	1. 哲学とは 2. 人間観 3. 死生観 4. 人間にとっての倫理				
設 定 理 由	生命の尊厳の尊重へつなげ、創造性豊かに人へ接するための幅広い人間性を養い、看護観を養うために設定した。				
テ キ ス ト					
参 考 図 書					
評 価	筆記試験 100点				

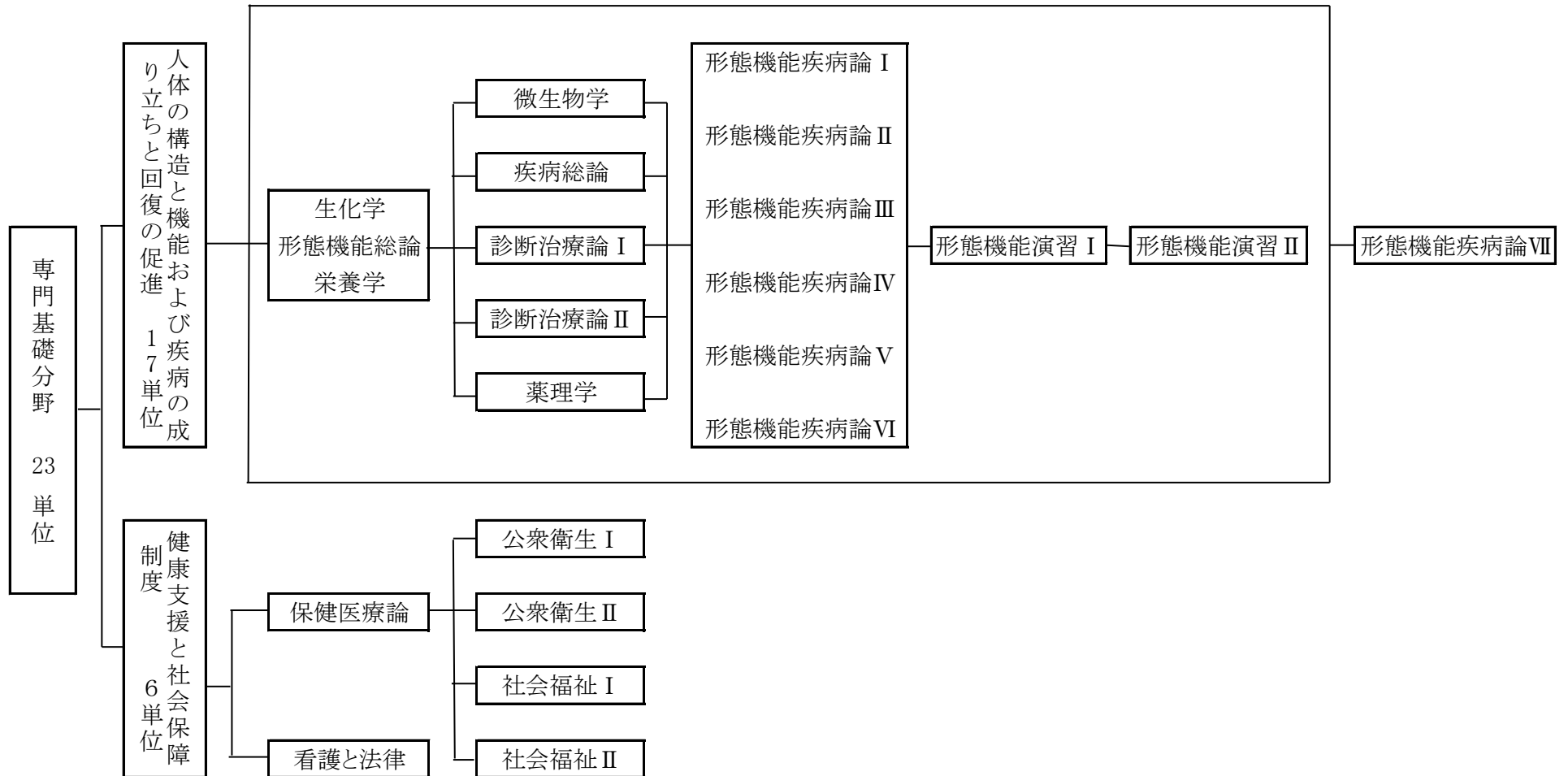
授 業 科 目	哲学Ⅱ	講師名	田中 みわ子		
開 講 時 期	2年次 後期	単位・時間	1単位 15時間	回数	講義7回 評価1回
目 標	1. 既習の知識と実習を統合させて人間理解を深める。				
内 容	1. 臨地実習を通しての人間理解 2. 現代社会における生と死				
設 定 理 由	既習の知識と実習を統合させて人間理解を深め今後の看護の基盤とするために設定した。				
テ キ ス ト					
参 考 図 書					
評 価	筆記試験 100点				

授 業 科 目	英語	講師名	リチャード・アレン・サンディーンⅡ		
開 講 時 期	1年次 前期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義15回 評価1回
目 標	1. 看護に必要な英語の基礎を身につける。				
内 容	1. 基本コミュニケーション 1) 挨拶 2) 自己紹介 2. 医療の場で使われる英単語 1) 身体各部の名称 2) 症状 3. 看護場面における会話				
設 定 理 由	看護の国際化に向け、看護に必要な英語の基礎を身につけるために設定した。				
テ キ ス ト	Bedside Manner (Perceptia Press)				
参 考 図 書					
評 価	筆記試験 100点				

授 業 科 目	体 育	講 師 名	千葉 陽子		
開 講 時 期	1年次 前期	単 位 ・ 時 間	1単位 15時間	回 数	講義1回 演習6回 評価1回
目 標	1. レクリエーションの意義・目的を理解する。 2. 基礎体力をつける機会とする。				
内 容	1. レクリエーションの意義 2. 運動と心身機能 3. 実技				
設 定 理 由	健康生活を支える運動の必要性を理解し、基礎体力をつくるために設定した。				
テ キ ス ト					
参 考 図 書					
評 価	課題試験 100点				

授 業 科 目	生活と文化	講師名	丹野 香須美 佐藤 るみゑ(病院で保健師として実務経験有)		
開 講 時 期	1年次 後期	単 位・時 間	1単位 30時間	回 数	講義9回 演習4回 評価1回
目 標	1. 看護の対象となる人々の生活の場となる地域や文化を知る。 2. 体験することにより感性と創造性を高めることができる。				
内 容	1. いわきの歴史 1) いわき市の歴史 2) 常磐炭鉱の歴史と生活 3) 小名浜港の歴史 2. いわきの環境 1) 自然環境 2) 産業の変化による環境の変化 3. いわきの医療 1) いわきの医療の現状 4. フィールドワーク 上記1. 2. に関し現地に赴き、担当者の説明から理解を深める				
設 定 理 由	地域に生活している人々の生活を知り、地域のニーズをふまえて看護できるように設定した。				
テ キ ス ト					
参 考 図 書					
評 価	筆記試験 100点				

専門基礎分野 関連図



授 業 科 目	形態機能総論	講師名	勝田 新一郎		
開 講 時 期	1年次 前期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義15回 評価1回
目 標	1. 人体の発生のメカニズム、ライフステージにおける成長発達や老化による変化について理解する。 2. 人体の基本的な構造とその意味を理解する。 3. 人体の生命維持のための恒常性について理解する。				
内 容	1. 人体の発生 <ul style="list-style-type: none"> 1) 受精と性の決定 2) 染色体・遺伝子 3) 発生のメカニズム 2. 成長発達と老化 <ul style="list-style-type: none"> 1) 組織および臓器の形態的加齢変化 2) 組織および臓器の機能的加齢変化 3) 代謝機能の加齢変化 3. 身体各部の名称 4. 生命と恒常性 <ul style="list-style-type: none"> 1) 細胞の構造とはたらき 2) 組織とは 3) 器官とは 4) 系とは 5) 体液 6) 体液の電解質 7) 体液の酸塩基平衡 8) 体温・体温調節 9) サーカディアンリズム 10) ホメオスターシス 				
設 定 理 由	人体の構造と機能は人間の成長・発達・老化現象などをふまえ、生命を維持・生活行動や活動のしくみを理解する上で重要である。看護援助を行う上で不可欠な知識であり、これらの知識は、根拠に基づいた看護実践につながるので設定した。				
テ キ ス ト	人体の構造と機能 解剖生理学(医学書院)				
参 考 図 書	入門 人体解剖学(南江堂)				
評 価	筆記試験 100点				

授 業 科 目	疾病総論	講師名	小池 朝子(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	1年次 前期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義15回 評価1回
目 標	1. 人間の生活において健康から疾病にいたるプロセスをふまえ、さまざまな疾病をもたらす身体内部の変化について理解する。				
内 容	1. 疾病の原因 1) 疾病を引き起こす内的・外的誘因 2) 疾病を引き起こす生活習慣 2. 生体の回復力 1) 回復力に影響する身体・心理・社会的因子 3. 細胞の傷害 1) 萎縮 2) 変性 3) 壊死とアポトーシス 4. 細胞の傷害に対する修復・再生・適応 1) 創傷とその治癒 2) 再生と修復 3) 肥大と過形成 5. 基本的な病変とその機序 1) 循環障害 2) 炎症 3) 免疫異常(アレルギーと自己免疫疾患) 4) 代謝障害 5) 老年症候群 6) 先天異常(遺伝子異常) 7) 腫瘍				
設 定 理 由	疾病を引き起こす原因や誘因をふまえた上で、疾病が人体の形態的・機能的変化についてどう影響しているかを理解し、看護援助を行う際の基礎知識とするために設定した。				
テ キ ス ト	疾病の成り立ちと回復の促進2 病態生理学(医学書院)				
参 考 図 書					
評 価	筆記試験 100点				

授 業 科 目	形態機能疾病論 I	講師名	上遠野 純子(病院で看護師として実務経験有) 山本 宗孝(病院で医師として実務経験有) 熊巳 真澄(病院で医師として実務経験有)		
開 講 時 期	1年次 前期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義15回 評価1回
目 標	1. 生活動作に関連するからだを支えたり動かすしくみについて理解する。 2. 恒常性を維持するための情報を収集して判断し、伝達するしくみについて理解する。 3. 健康生活へ回復するための障害の病因・病態診断・検査・治療について理解する。				
内 容	1. 姿勢 1) 体位と構え 2. 骨格 1) 骨の構造と機能 2) 軟骨の構造と機能 3) 脊柱 4) 四肢の骨 3. 関節 1) 関節の構造と種類 2) 関節可動域 4. 骨格筋 1) 骨格筋の構造 2) 筋収縮の機構 3) 頭部・頸部の筋 4) 胸部・腹部の筋 5) 殿部の筋・骨盤底筋 6) 四肢の筋 5. からだを支え動かすしくみの障害 1) 骨折・脱臼・捻挫 2) 骨粗鬆症 3) 骨の腫瘍 4) 変形性関節症 5) 腰痛症 (椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症) 6) 筋ジストロフィー 7) 重症筋無力症 8) 廃用症候群 9) 脊髄損傷 6. 神経組織 1) 神経細胞と情報伝達 2) 神経組織 3) 神経膠細胞				

内 容	<p>7. 中枢神経系の構造と機能</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 大脳 2) 視床・視床下部 3) 脳幹 4) 小脳 5) 脊髄 6) 脊髄反射 7) 中枢神経系の統合機能 8) 覚醒と睡眠 <p>8. 末梢神経系</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 脳神経系 2) 脊髄神経と神経叢 3) 体性神経系 4) 自律神経系 <p>9. 情報収集・判断・伝達のしくみの障害</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 脳血管系の循環障害 2) 頭蓋内圧亢進を伴う症状 3) 神経変性 (パーキンソン病・筋委縮性側索硬化症) 4) 脱髄性疾患 (多発性硬化症) 5) 認知症 (アルツハイマー病・血管性認知症・レビー小体型認知症) 6) 中枢神経系の感染症 7) 頭部と脊椎の外傷 8) 機能性疾患 (てんかん・頭痛) 9) 中枢神経系の腫瘍 10) 二次的に意識障害・神経障害をおこす疾患 11) ギラン・バレー症候群 12) 顔面神経麻痺 13) 自律神経失調に伴う身体変化 (不定愁訴)
設 定 理 由	<p>からだを支え動かすしくみや情報伝達のしくみについて理解し、それぞれが障害されたときのメカニズム、治療などについて学び、基礎的知識を看護に活用するために設定した。</p>
テ キ ス ト	<p>成人看護学10運動器 成人看護学7脳神経(医学書院)</p>
参 考 図 書	<p>解剖生理学(医学書院), 病態生理学(医学書院)</p>
評 価	<p>筆記試験 100点</p>
主な関連科目	<p>形態機能総論、疾病総論、診断治療論Ⅰ・Ⅱ、微生物学、薬理学</p>

授 業 科 目	形態機能疾病論Ⅱ	講師名	大平 久美子(病院で看護師として実務経験有) 清水 優(病院で医師として実務経験有) 大根田 実(病院で医師として実務経験有)		
開 講 時 期	1年次 前期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義15回 評価1回
目 標	1. 生命を維持していくためのからだのすみずみまで血液を送るしくみについて理解する。 2. 生命を維持していくための酸素の取り入れと二酸化炭素の排出について理解する。 3. 人体の恒常性を維持するための血液の働きについて理解する。 4. 健康生活へ回復するための障害の病因・病態診断・検査・治療について理解する。				
内 容	1. 心臓 <ol style="list-style-type: none"> 1) 心臓と心筋の構造 2) 心臓の機能 3) 刺激伝導系 4) 心機能の調節 2. 血管系 <ol style="list-style-type: none"> 1) 動脈・静脈・毛細血管 2) 血圧と血圧調節 3) 門脈系 4) 肺循環と体循環 5) 冠循環 6) 脳循環 7) 胎児の血液循環 8) 末梢循環の調節 3. リンパ系 <ol style="list-style-type: none"> 1) リンパ 2) リンパ管の構造と機能 3) 胸管 4. からだのすみずみまで血液を送るしくみの障害 <ol style="list-style-type: none"> 1) 先天性心疾患 2) 虚血性心疾患 3) 心筋症 4) 心不全 (右心不全・左心不全・心タンポナーデ) 5) 不整脈 6) 心内膜炎と弁膜疾患 7) 動脈硬化症 8) 高血圧 9) 閉塞性動脈硬化症 10) 大動脈瘤・大動脈解離 11) 静脈瘤・静脈血栓症 5. 気道 <ol style="list-style-type: none"> 1) 気道の構造 2) 発声 6. 肺 <ol style="list-style-type: none"> 1) 肺の構造 2) 胸膜と縦隔 7. 呼吸 <ol style="list-style-type: none"> 1) 呼吸筋 2) 換気 3) ガス交換 4) 呼吸運動 5) 呼吸調節 				

内 容	<p>8. 酸素の取り入れと二酸化炭素を排出するしくみの障害</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 気道・肺の炎症 2) 気道の閉塞をきたす疾患 (気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患) 3) 肺循環障害 (肺梗塞・肺塞栓症) 4) 肺の腫瘍 (癌・中皮腫) 5) 肺結核 6) 気胸 <p>9. 血液の成分と機能</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 血液の成分 2) 血液のはたらき 3) 血液の物理化学的特性 4) 造血と造血因子 <p>10. 止血機構</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 血液凝固 2) 繊維素溶解 <p>11. 血液型</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ABO型およびRh式 2) 不規則抗体 <p>12. 血液のはたらきの障害</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 貧血 2) 出血傾向と凝固・線溶系の異常 3) 白血球減少症 4) 造血器の腫瘍 (白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫)
設 定 理 由	生命を支えるしくみについて理解し、それらが障害されたときのメカニズム、治療などについて学び、基礎的知識を看護に活用するために設定した。
テ キ ス ト	成人看護学2呼吸器 成人看護学3循環器 成人看護学4血液造血器 (医学書院)
参 考 図 書	解剖生理学(医学書院), 病態生理学(医学書院)
評 価	筆記試験 100点
主 な 関 連 科 目	形態機能総論、疾病総論、診断治療論Ⅰ・Ⅱ、微生物学、薬理学

授 業 科 目	形態機能疾病論Ⅲ	講師名	山下 麗香(病院で医師として実務経験有) 松本 倫典(病院で医師として実務経験有) 村田 豊明(病院で医師として実務経験有) 金子 裕史(病院で歯科医師として実務経験有)		
開 講 時 期	1年次 前期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義15回 評価1回
目 標	1. 生命の維持に必要な食物を摂取して、消化吸収し、排泄するしくみについて理解する。 2. 血液中の老廃物から尿をつくるしくみについて理解する。 3. 健康生活へ回復するための障害の病因・病態診断・検査・治療について理解する。				
内 容	1. 食欲 1) 血糖と食欲の中樞 2. 咀嚼 1) 歯・口腔の構造と機能 2) 咀嚼の過程 3. 嚥下 1) 咽頭の構造と機能 2) 食道の構造と機能 3) 嚥下の過程 4. 消化と吸収 1) 胃の構造と機能 2) 十二指腸の構造と機能 3) 空腸・回腸の構造と機能 4) 結腸・虫垂の構造と機能 5) 直腸・肛門の構造と機能 6) 肝臓と胆道の構造と機能 7) 膵臓の構造と機能 8) 消化管運動と反射 5. 栄養の摂取・消化吸収・代謝の障害 1) 口腔と食道の機能障害 (咀嚼・嚥下機能の障害) 2) 口腔・食道の疾患 3) 消化管の炎症と潰瘍 4) 消化管の腫瘍 5) イレウス 6) 肝臓・胆嚢・膵臓の炎症 7) 肝硬変 8) 肝臓・胆嚢・膵臓の腫瘍 9) 脂肪肝・アルコール性肝炎・ 10) 胆石症 11) 腹壁・腹膜・横隔膜の疾患 12) 便秘 13) 下痢				

<p style="text-align: center;">内 容</p>	<p>6. 尿の生成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 腎臓の構造 2) 濾過 3) 再吸収 4) 分泌 <p>7. 細胞外液の調節</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 抗利尿ホルモンの作用 2) レニン-アンギオテンシン-アルドステロン系 <p>8. 排尿</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 膀胱の構造と機能 2) 尿管の構造と機能 3) 尿道の構造と機能 4) 排尿反射 5) 蓄尿反射 <p>9. 体液の調節障害</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 水と電解質の異常 2) 酸塩基平衡の異常 <p>10. 排泄するしくみの障害</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 腎炎・慢性腎臓病 2) 尿路の炎症 3) 腎・尿路の腫瘍 4) 腎・尿路の通過障害 5) 腎不全
<p style="text-align: center;">設 定 理 由</p>	<p>栄養摂取のしくみと排泄について理解し、それらが障害されたときのメカニズム、治療などについて学び、基礎的知識を看護に活用するために設定した。</p>
<p style="text-align: center;">テ キ ス ト</p>	<p>成人看護学5消化器 成人看護学8腎・泌尿器 成人看護学15歯・口腔(医学書院)</p>
<p style="text-align: center;">参 考 図 書</p>	<p>解剖生理学(医学書院), 病態生理学(医学書院)</p>
<p style="text-align: center;">評 価</p>	<p>筆記試験 100点</p>
<p style="text-align: center;">主な関連科目</p>	<p>形態機能総論、疾病総論、診断治療論Ⅰ・Ⅱ、微生物学、薬理学、生化学、栄養学</p>

授 業 科 目	形態機能疾病論Ⅳ	講師名	清水 優(病院で医師として実務経験有) 田中 友博(病院で医師として実務経験有) 有馬 晴美(病院で医師として実務経験有) 鈴木 春香(病院で医師として実務経験有)		
開 講 時 期	1年次 後期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義15回 評価1回
目 標	1. 外界の有害物質を認識して排除するしくみを理解する。 2. 生体を調整・制御する内分泌系とホルモンの働きについて理解する。 3. 外界の情報を受容器で取り入れ、認識するしくみを理解する。 4. 健康生活へ回復するための障害の病因・病態診断・検査・治療について理解する。				
内 容	1. 非特異的生体防御機構 1) 生体表面での防御機構 2) 食細胞とサイトカイン 3) 胸腺・脾臓・リンパ節 2. 非特異的生体防御反応(免疫系) 1) 免疫系の細胞 2) 抗原と抗体 3) 液性免疫 4) 細胞性免疫 5) アレルギー反応 3. 外界の有害物質を認識して排除するしくみの障害 1) 全身性エリテマトーデス(SLE) 2) 関節リウマチ 3) シェーグレン症候群 4) 花粉症(アレルギー性鼻炎) 5) 蕁麻疹 6) 接触性皮膚炎 7) ヒト免疫不全ウイルス(HIV)感染症 4. ホルモンの種類 1) ホルモンの化学的性質と作用機序 5. ホルモン分泌の調節 1) 調節ホルモン・拮抗ホルモン 2) フィードバック機構 6. 内分泌器官の構造とホルモンの機能 1) 視床下部 2) 下垂体 3) 甲状腺 4) 上皮小体(副甲状腺) 5) 膵島 6) 副腎皮質 7) 副腎髄質 8) 消化管ホルモン 9) 腎臓のホルモン 10) 性腺ホルモン 7. 内分泌系とホルモンのしくみの障害 1) 下垂体の疾患 2) 甲状腺の疾患 3) 副甲状腺(上皮小体)の疾患 4) 副腎の疾患 5) 多発性内分泌腫瘍				

内 容	<p>8. 栄養バランス不均衡による障害</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) メタボリックシンドローム 2) 肥満 3) 糖尿病 4) 脂質異常症(高脂血症) 5) 高尿酸血症と痛風 6) 必須栄養素とエネルギーの不足による疾患 7) ビタミン欠乏症 <p>9. 視覚</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 眼球の構造 2) 視力と視野 3) 形状認知と色覚 4) 視覚の伝導路 5) 眼球運動 6) 眼球に関する反射 <p>10. 聴覚と平衡覚</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 耳の構造 2) 聴覚と聴力 3) 平衡器官の構造 4) 平衡覚 <p>11. 味覚と嗅覚</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 嗅覚受容器の構造と嗅覚 2) 味覚受容器の構造と味覚 <p>12. 皮膚感覚(体性感覚)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 皮膚の構造と機能 2) 漿膜・粘膜 3) 皮膚の感覚受容器 4) 皮膚感覚の種類 5) 深部感覚の受容器 <p>13. 内部情報の処理</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 内部情報の受容体と認識 <p>14. 外界の情報を受容器で取り入れ、認識するしくみ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 視覚の障害 2) 聴覚・平衡覚の障害 3) 嗅覚と味覚の障害 4) 皮膚の障害 (湿疹、アトピー性皮膚炎、帯状疱疹、疥癬)
設 定 理 由	<p>生体の防御機構、内部環境の調節、情報の取り入れのしくみについて理解し、それぞれが障害されたときのメカニズム、治療などについて学び、基礎的知識を看護に活用するために設定した。</p>
テ キ ス ト	<p>成人看護学11アレルギー膠原病 6内分泌 13眼 14耳鼻咽喉 12皮膚(医学書院)</p>
参 考 図 書	<p>解剖生理学(医学書院), 病態生理学(医学書院)</p>
評 価	<p>筆記試験 100点</p>
主 な 関 連 科 目	<p>形態機能総論、疾病総論、診断治療論 I・II、微生物学、薬理学、生化学、栄養学</p>

授 業 科 目	形態機能疾病論Ⅴ	講 師 名	木内 弘道(病院で医師として実務経験有) 佐藤 俊介(病院で医師として実務経験有) 児玉 幸(病院で助産師として実務経験有)		
開 講 時 期	1年次 後期	単 位・時 間	1単位 30時間	回 数	講義15回 評価1回
目 標	1. 生殖に関する機構について理解する。 2. 健康生活へ回復するための障害の病因・病態診断・検査・治療について理解する。 3. 小児のさまざまな健康障害の病因・病態診断・検査・治療について理解する。				
内 容	1. 女性の生殖系 1) 卵巣の構造と機能 2) 卵管・子宮・膣の構造と機能 3) 外陰部、会陰の構造 4) 性周期 5) 妊娠・分娩・産褥 6) 乳房 2. 女性の生殖系の障害 1) 女性生殖器の疾患 2) 乳腺の疾患 3) 妊娠・分娩・産褥の障害 3. 男性の生殖系 1) 精巣・精巣上体の構造と機能 2) 精子の形成 3) 付属生殖腺の構造と機能 4. 男性生殖系の障害 1) 男性生殖器の疾患 5. 小児の健康障害 1) 先天異常 2) 新生児の疾患 3) 代謝性疾患 4) 内分泌疾患 5) 免疫・アレルギー性疾患・膠原病 6) 感染症 7) 呼吸器疾患 8) 循環器疾患 9) 消化器疾患 10) 血液・造血器疾患 11) 悪性新生物 12) 腎・泌尿器および生殖器疾患 13) 神経疾患 14) 運動器疾患 15) 皮膚疾患 16) 眼疾患・耳鼻咽喉疾患				
設 定 理 由	生殖のしくみについて理解し、それらが障害されたときのメカニズム、治療などについて学び、基礎的知識を看護に活用するために設定した。小児の健康障害のメカニズム、治療などについて学び、基礎的知識を看護に活用するために設定した。				
テ キ ス ト	成人看護学9女性生殖器 8腎・泌尿器 母性看護学2各論 小児看護学2各論(医学書院)				
参 考 図 書	解剖生理学(医学書院), 病態生理学(医学書院)				
評 価	筆記試験 100点				
主 な 関 連 科 目	形態機能総論、疾病総論、診断治療論Ⅰ・Ⅱ、微生物学、薬理学				

授 業 科 目	形態機能疾病論Ⅵ	講 師 名	西牧 由佳(病院で臨床心理士として実務経験有) 本田 教一(病院で医師として実務経験有) 田子 久夫(病院で医師として実務経験有) 藤井 千太(病院で医師として実務経験有) 菅野 智美(病院で医師として実務経験有)		
開 講 時 期	1年次 前期	単 位・時 間	1単位 30時間	回 数	講義15回 評価1回
目 標	1. ライフステージにおける心の構造と働き、発達、健康について理解する。 2. 健康生活へ回復するための障害の病因・病態診断・検査・治療について理解する。				
内 容	1. 心の健康 1) 精神の健康の概念 2) 精神障害の第一次予防・第二次予防・第三次予防 2. 精神の機能 1) 意識と見当識 2) 知的機能 3) 知覚 4) 思考 5) 感情 6) 意欲と衝動コントロール 7) 記憶 8) 注意と集中 9) 自我機能 10) 行動 3. 危機(クライシス) 1) 危機の概念 2) 危機介入 3) 危機と予防 4. ライフステージと精神の健康 1) 乳幼児期 2) 児童・思春期 3) 青年期 4) 成人期 5) 老年期 5. 精神保健における生物学的側面 1) 脳の部位と精神機能 2) 神経伝達物質と精神機能 3) 脳の脆弱性モデル 4) 免疫機能と概日リズム 5) 睡眠 6. 精神保健における心理学的側面 1) 精神情緒の発達 2) 転移感情 3) 自我の防衛機制 4) 集団力動 5) ストレスと対処				

内 容	<p>7. さまざまな症状</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 不安状態 2) 抑うつ状態 3) 躁状態 4) 幻覚 5) 思考内容と思路の障害 6) 強迫思考・強迫行為 7) 意識の変容 8) 記憶障害 9) 離脱症状 10) 知的機能の障害 <p>8. 診断基準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 統合失調症 2) 気分障害 3) 精神症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 4) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 5) 精神作用物質関連障害 6) 人格障害 7) 器質性精神障害 8) 発達障害 <p>9. 臨床検査</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 脳波検査・脳の画像検査 2) 心理検査 3) 脳脊髄液検査 <p>10. 薬物療法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 抗精神病薬 2) 抗うつ薬 3) 気分安定薬 4) 抗不安薬 5) 睡眠薬 6) 抗てんかん薬 <p>11. さまざまな精神科療法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 服薬自己管理 2) 心理教育 3) 個人精神療法 4) 集団精神療法 5) 認知行動療法 6) 作業療法 7) 芸術療法 8) 生活技能訓練(SST) 9) 電気けいれん療法
設 定 理 由	<p>こころのしくみについて理解し、それらが障害されたときのメカニズム、治療などについて学び、基礎的知識を看護に活用するために設定した。</p>
テ キ ス ト	精神看護の基礎(医学書院)
参 考 図 書	解剖生理学(医学書院), 臨床薬理学(メディカ出版), 臨床検査(医学書院)
評 価	筆記試験 100点
主 な 関 連 科 目	形態機能総論、疾病総論、診断治療論 I・II、微生物学、薬理学、心理学

授 業 科 目	形態機能疾病論Ⅶ	講師名	松本 奈緒美(病院で看護師として実務経験有) 佐藤 奈央(病院で保健師として実務経験有)		
開 講 時 期	3年次 後期	単 位・時 間	1単位 30時間	回 数	講義9回 演習5回 評価1回
目 標	1. 既習の知識を統合させ、形態機能疾病論に関する知識を深める。				
内 容	1. 事例を通して形態機能疾病に関する知識の統合				
設 定 理 由	学内での学習や実習で培った知識を統合させ、形態機能疾病に関する知識を深めるために設定した。				
テ キ ス ト	人体の構造と機能 解剖生理(医学書院) 疾病の成り立ちと回復の促進2 病態生理学(医学書院)				
参 考 図 書	成人看護学(医学書院)ほか全てのテキスト				
評 価	筆記試験 100点				
主 な 関 連 科 目	形態機能総論、疾病総論、形態機能疾病論Ⅰ～Ⅵ				

授 業 科 目	形態機能演習 I	講師名	児玉 幸(病院で助産師として実務経験有)		
開 講 時 期	1年次 後期	単位・時間	1単位 15時間	回数	講義2回 演習4回 評価2回
目 標	1. 看護に活用できるよう人体の構造と機能を系統だてて理解を深める。 2. アクティブラーニングを通し主体的に学習に臨むことができる。				
内 容	看護の視点での形態機能のまとめ				
設 定 理 由	既習の人体の構造と機能について看護に活用できるよう看護の視点で学びが深まるよう設定した。				
テ キ ス ト	人体の構造と機能 解剖生理学(医学書院)				
参 考 図 書	成人看護学(医学書院)ほか全てのテキスト				
評 価	筆記試験 100点				
主 な 関 連 科 目	形態機能総論、疾病総論、形態機能疾病論 I～VI				

授 業 科 目	形態機能演習Ⅱ	講師名	猪股 善也(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	2年次 前期	単位・時間	1単位 15時間	回数	講義2回 演習5回 評価1回
目 標	1. 人体に触れることにより基礎的な構造とその意味の理解を深める。 2. 献体された方々の意志を尊重した態度で、学習に臨むことができる。				
内 容	福島県立医科大学で解剖見学				
設 定 理 由	人体の構造と機能は人間の成長・発達・老化現象・疾病の進行状態などを観察・判断し、看護援助を行う上で不可欠な知識である。人体に直接触れることにより複雑な構造について位置関係などの理解を深めさらに、献体された方々の崇高な意志を尊重しながら学習する機会とするために設定した。				
テ キ ス ト	人体の構造と機能 解剖生理学(医学書院)				
参 考 図 書	成人看護学(医学書院)ほか全てのテキスト				
評 価	筆記試験 100点				
主な関連科目	形態機能総論、疾病総論、形態機能疾病論Ⅰ～Ⅵ				

授 業 科 目	診断治療論 I	講師名	青天目 勇二(病院で臨床検査技師として実務経験有) 佐藤 浩史(病院で診療放射線技師として実務経験有) 山崎 進(病院で理学療法士として実務経験有) 沼田 忠之(病院で言語聴覚士として実務経験有) 新妻 祐介(病院で作業療法士として実務経験有)		
開 講 時 期	1年次 前期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義14回 演習1回 評価1回
目 標	1. 疾病や障害のある対象へ援助するために必要な臨床検査、放射線医学、リハビリテーションについて理解する。 2. 診断・治療の実際場面を見学し、理解を深める。				
内 容	1. 診療における臨床検査の役割 2. 検査の種類 1) 検体検査 2) 生体検査 3. 放射線医学の成り立ち 4. 検査の種類 1) 単純撮影 2) 造影検査 3) 血管造影検査 4) コンピューター断層撮影 5) 磁気共鳴画像診断 6) 核医学診断 5. 放射線治療 1) 遠隔照射法 2) 密封線源による照射療法 3) 内部照射療法 6. 放射線防護と健康管理 1) 放射線障害 2) 放射線被曝軽減の3原則 3) 放射線管理と健康管理 7. リハビリテーションの定義と概念 8. リハビリテーション医療システム 9. リハビリテーションの種類 1) 運動系の障害とリハビリテーション 2) 中枢神経系の障害とリハビリテーション 3) 呼吸・循環器系の障害とリハビリテーション 4) 感覚器系の障害とリハビリテーション 10. リハビリテーション室見学演習				
設 定 理 由	疾病や障害のある対象への援助をするために必要な臨床検査、放射線医学、リハビリテーションについて理解し、基礎的知識を看護に活用するために設定した。				
テ キ ス ト	臨床検査(医学書院) 臨床放射線医学(医学書院) リハビリテーション看護(医学書院)				
参 考 図 書	解剖生理学(医学書院), 病態生理学(医学書院)				
評 価	筆記試験 100点				

授 業 科 目	診断治療論Ⅱ	講師名	藤井 文夫(病院で医師として実務経験有) 渡邊 進(病院で医師として実務経験有)		
開 講 時 期	1年次 前期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義15回 評価1回
目 標	1. 疾病や障害のある対象へ援助するために必要な麻酔・救急処置、手術療法について理解する。				
内 容	1. 麻酔とは 2. 麻酔の種類と身体侵襲 1) 吸入麻酔 2) 静脈麻酔 3) 脊髄クモ膜下麻酔 4) 硬膜外麻酔 3. 手術前 1) 術前回診 2) 麻酔前投薬 3) 経口摂取制限 4. 手術中 1) 循環器系モニター 2) 呼吸器系モニター 3) 筋弛緩モニター 4) 体位 5. 手術後 1) 麻酔覚醒 2) 術後の疼痛管理 6. 救急処置法 1) 気道確保 2) 人工呼吸 3) 心臓マッサージ 4) 静脈確保・薬物投与 5) 一次救命処置(BLS) 6) 二次救命処置(ACLS) 7) 自動体外除細動器(AED) 7. 生命の危機 1) ショック 2) 播種性血管内凝固症候群(DIC)・多臓器不全(MOF) 3) 生命の危機をもたらす損傷 4) 死の徴候 5) 死亡判定 6) 脳死 8. 輸液療法・輸血 9. 臓器移植				

内 容	<p>10. 手術療法の決定要因</p> <p>11. 手術侵襲と生体の反応</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 手術侵襲の意味 2) 侵襲に対する生体反応 3) ムーアの分類 4) 手術侵襲の評価 <p>12. 外科的基本手技</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 清潔操作 2) 縫合と抜糸 3) 創傷治癒過程 4) 創部の消毒 <p>13. 術後の疼痛管理</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 術後疼痛のメカニズム 2) 術後鎮痛法の適応 3) 先取り鎮痛法 <p>14. 術後合併症とその予防</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 循環器系 2) 無気肺 3) 肺血栓塞栓症 4) 麻痺性腸閉塞 5) 癒着性腸閉塞 6) 縫合不全 <p>15. 外科的感染対策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 創部感染 2) 創部外感染 3) ドレナージ
設 定 理 由	<p>疾病や障害のある対象への援助をするために必要な麻酔・救急処置、手術療法について理解し、基礎的知識を看護に活用するために設定した。</p>
テ キ ス ト	<p>臨床外科看護総論(医学書院)</p>
参 考 図 書	<p>解剖生理学(医学書院), 病態生理学(医学書院)</p>
評 価	<p>筆記試験 100点</p>

授 業 科 目	微生物学	講師名	青天目 勇二(病院で臨床検査技師として実務経験有) 馬場 現一(病院で臨床検査技師として実務経験有) 望月 望(病院で臨床検査技師として実務経験有)		
開 講 時 期	1年次 後期	単 位・時 間	1単位 15時間	回 数	講義7回 評価1回
目 標	微生物の特徴と生体に及ぼす影響や感染症の概要について学び、安全と感染予防の重要性について理解する。				
内 容	1. 人と微生物のかかわり 2. 微生物の種類と特徴 1) 細菌 2) ウイルス 3) 真菌 4) 原虫 3. 感染と発症 1) 感染と感染症 2) 感染・発病を規定する因子 3) 常在細菌叢 4) 感染源と感染経路、潜伏期間 4. 化学療法と薬剤耐性菌 1) さまざまな化学療法と抗生物質 2) 薬剤感受性試験 3) 耐性菌 5. 免疫のしくみ 1) 免疫応答の成立 2) 液性免疫と細胞性免疫 3) 感染防御免疫 4) 免疫病 6. 予防処置と感染防御 1) ワクチン接種と血清療法 2) 滅菌と消毒 7. 主な細胞・ウイルス・真菌・原虫				
設 定 理 由	病原微生物が疾病を引き起こす機序を知り、感染の発生・治療・予防についての理解を深め、自分自身を微生物から守り基礎的知識を看護に活用するために設定した。				
テ キ ス ト	臨床微生物・医動物(メディカ出版)				
参 考 図 書	解剖生理学(医学書院), 病態生理学(医学書院), 臨床薬理学(メディカ出版)				
評 価	筆記試験 100点				

授 業 科 目	生化学	講師名	内田 智(病院で薬剤師として実務経験有)		
開 講 時 期	1年次 前期	単位・時間	1単位 15時間	回数	講義7回 評価1回
目 標	1. 人体の構成成分である物質の構造・性質・代謝について学び、生体の恒常性について理解する。				
内 容	1. 細胞 1) 細胞の構造 2) 伝達情報 2. エネルギー代謝 1) 同化作用と異化作用 2) 酵素 3) 炭水化物の代謝 4) 脂肪の代謝 5) タンパク質の代謝 6) 核酸の代謝 3. 遺伝情報 1) 遺伝情報とは 2) DNAの複製 3) DNAからRNAへの転写 4) RNAからタンパク質への翻訳 5) 遺伝子の変化				
設 定 理 由	生体を維持するために不可欠な物質代謝の過程を学び、健康が維持されたり疾患に罹患した場合の体内の変化を知り、疾患の理解につなげる必要があるために設定した。				
テ キ ス ト	臨床生化学(メディカ出版)				
参 考 図 書	解剖生理学(医学書院)				
評 価	筆記試験 100点				

授 業 科 目	栄養学	講師名	熊谷 理恵(病院で管理栄養士として実務経験有)		
開 講 時 期	1年次 前期	単位・時間	1単位 15時間	回数	講義7回 評価1回
目 標	1. 栄養学の基礎的知識をふまえ、ライフステージやライフスタイルに合った健康な食生活や食事療法の実際について理解する				
内 容	1. 各栄養素の役割 1) 炭水化物 2) 脂質 3) タンパク質 4) ビタミン類・ミネラル 5) 無機質 6) 水 2. 栄養所要量とエネルギー所要量 1) 栄養所要量 2) エネルギー所要量 3) 基礎代謝 3. ライフステージと栄養 1) 乳幼児 2) 学童期 3) 思春期 4) 成人期 5) 老年期 6) 妊娠・授乳期 4. 食品構成と各食品の特徴 5. 栄養状態の判定 1) 身体各部の測定 2) 生化学的検査 3) いろいろな指数(カウプ指数、BMIなど) 6. 食事療法 1) 治療食の分類 2) 治療食の形態 3) 検査食 4) 食事療法の実際				
設 定 理 由	生命の維持や身体の形成のために必要な栄養素について学び、さらにライフステージやライフサイクルに応じた栄養のあり方、さらに病態に応じた食事療法について理解する必要があるために設定した。				
テ キ ス ト	わかりやすい栄養学(ヌーヴェルヒロカワ)				
参 考 図 書	解剖生理学(医学書院)				
評 価	筆記試験 100点				

授 業 科 目	薬理学	講師名	内田 智(病院で薬剤師として実務経験有)		
開 講 時 期	1年次 後期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義15回 評価2回
目 標	1. 薬物の特徴、作用機序、人体への影響および薬物の管理について理解する。				
内 容	1. 薬物と医薬品の定義 2. 薬物療法の目的 1) 原因療法 2) 対症療法 3) 補充療法 4) 予防療法 3. 薬物に対する生体の反応 1) 吸収 2) 分布 3) 代謝 4) 排泄 4. 与薬方法と薬理作用 1) 内服 2) 注射 3) 吸入 4) 直腸内適用 5. 薬物治療における有害作用 1) 主作用と有害作用 2) アレルギー反応 3) 薬物依存 4) 催奇形性 5) 薬物中毒 6. 医薬品等による健康被害 1) HIV感染症/AIDS 2) ウイルス性肝炎 3) クロイツフェルト・ヤコブ病 7. 医薬品の安全管理 1) 薬事法 2) 日本薬局方 3) 麻薬および向精神薬取締法 4) 覚せい剤取締法 5) 混合の可否 6) 禁忌 7) 保存方法 8) 薬物効果に影響する要因 9) 誤薬				

<p style="text-align: center;">内 容</p>	<p>8. 主な薬物の作用と副作用</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 抗菌薬 2) 抗ウイルス薬 3) 抗がん薬 4) 強心薬・抗不整脈薬 5) 狭心症治療薬 6) 降圧薬・昇圧薬 7) 利尿薬 8) 副腎皮質ステロイド 9) 糖尿病治療薬 10) 中枢神経薬 11) 麻薬 12) 血液凝固に関する薬 13) 免疫抑制薬
<p>設 定 理 由</p>	<p>薬物の特性・作用・副作用についての基礎的な知識を理解し、安全な薬物使用・管理、さらに臨床での薬物治療について学び看護に活用するために設定した。</p>
<p>テ キ ス ト</p>	<p>臨床薬理学(メディカ出版)</p>
<p>参 考 図 書</p>	<p>解剖生理学(医学書院)</p>
<p>評 価</p>	<p>筆記試験 100点</p>

授 業 科 目	公衆衛生 I	講師名	新家 利一		
開 講 時 期	2年次 前期	単位・時間	1単位 15時間	回数	講義7回 評価1回
目 標	1. 公衆衛生の概念を理解し、生活者をとりまく環境をさまざまな側面からとらえ、健康に及ぼす影響について理解する。				
内 容	1. 公衆衛生の概念 1) 公衆衛生の領域、活動の特徴 2) プライマリヘルスケア 3) ヘルスプロモーション 4) 健康の概念 5) 世界保健機構 (WHO) 加盟国の役割 2. 健康と環境 1) 生態的環境 2) 物理化学的環境 3) 社会的環境 4) 身体的・精神・心理的環境 3. 疫学的方法による健康の理解 1) 健康被害と母集団 2) 疫学的因果関係の推定 3) 臨床疫学とエビデンス 4. 健康の指標 1) 国勢調査 2) 人口静態 3) 出生 4) 死亡・死因 5) 死産・周産期死亡・乳児死亡 6) 平均余命、平均寿命 7) 健康寿命 8) 有病率・罹患率 5. 感染症と予防 1) 感染症成立の要因 2) 感染症の流行現象 3) 感染予防の基本 4) 感染症の予防及び感染症患者に対する医療に関する法律(感染症法) 5) 院内感染とその予防 6) 予防接種 7) 結核予防 8) ヒト免疫不全ウイルス(HIV)感染症/後天性免疫不全症候群(AIDS) 9) 新型インフルエンザ 6. 地球環境からみた生活環境 1) 地球温暖化 2) アスベスト 3) 放射性物質 4) 水質汚染 5) 大気汚染 6) 土壌汚染				

<p style="text-align: center;">内 容</p>	<p>7. 食生活からみた生活環境</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 食品安全確保対策 2) 食品衛生管理制度 3) 家庭用品の安全対策 <p>8. ごみ・廃棄物からみた生活環境</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 一般廃棄物と産業廃棄物 2) 市町村と企業の責任 3) 生活排水処理 <p>9. 住環境からみた生活環境</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) バリアフリー 2) 室内空気汚染と健康問題
<p style="text-align: center;">設 定 理 由</p>	<p>健康生活の維持増進のため、ライフステージにおける保健の動向や保健活動について理解するために設定した。</p>
<p style="text-align: center;">テ キ ス ト</p>	<p>わかりやすい公衆衛生学(ヌーヴェルヒロカワ)</p>
<p style="text-align: center;">参 考 図 書</p>	<p>国民衛生の動向</p>
<p style="text-align: center;">評 価</p>	<p>筆記試験 100点</p>

授 業 科 目	公衆衛生Ⅱ	講師名	佐藤 るみゑ(病院で保健師として実務経験有)		
開 講 時 期	2年次 後期	単位・時間	1単位 15時間	回数	講義7回 評価1回
目 標	1. ライフステージにおける保健の動向、疾病・障害予防の保健活動を理解する。				
内 容	1. 地域保健活動 1) 地域保健法の理念と指針 2) 保健所 3) 市町村保健センター 4) 健康日本21 5) 健康増進法 2. 母子保健 1) 母子保健法 2) 母子健康手帳 3) 保健指導・訪問指導 4) 健康診査・健康教育 5) 養育医療 6) 健やか親子21 7) 児童虐待防止 8) 母体保護法 3. 学校保健 1) 学校保健安全法 2) 健康診断・健康相談 3) 感染症予防 4) 学校環境衛生 4. 精神保健福祉 1) 精神保健対策の制度の変遷 2) 精神障害者(児)の医療・福祉 3) こころの健康と自殺対策 4) 発達障害 5. 生活習慣病 1) 主な生活習慣病の現状 2) 栄養・運動・休養 3) 喫煙・飲酒 4) 健康教育と早期発見 5) がん対策基本法 6) 循環器疾患の予防 7) 糖尿病の予防 8) 特定健康診査、特定保健指導 6. 難病対策 1) 特定疾患治療研究事業				

<p style="text-align: center;">内 容</p>	<p>7. 産業保健</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 労働者の健康管理 2) 労働安全衛生法 3) 健康管理・職業病の予防 4) トータル・ヘルスプロモーション 5) 作業環境・作業環境管理 6) ワーク・ライフ・バランス
<p>設 定 理 由</p>	<p>生活者を取り巻く環境をさまざまな綿からとらえ、健康に及ぼす影響を理解し、各ライフステージにおける保健の動向、疾病・障害予防の保健活動や公衆衛生の課題などについて理解するために設定した。</p>
<p>テ キ ス ト</p>	<p>わかりやすい公衆衛生学(ヌーヴェルヒロカワ)</p>
<p>参 考 図 書</p>	<p>国民衛生の動向</p>
<p>評 価</p>	<p>筆記試験 100点</p>

授 業 科 目	社会福祉 I	講師名	中川 雄介(病院で社会福祉士として実務経験有)		
開 講 時 期	2年次 前期	単 位・時 間	1単位 15時間	回 数	講義7回 評価1回
目 標	1. 社会保障の理念を理解し、生活を保障するための社会保険制度を具体的に理解する。				
内 容	1. 社会保障の理念 1) 理念、目的、機能、体系、内容 2) 人権、日本国憲法25条、倫理 3) ノーマライゼーション 4) 情報公開、地方分権、参加 5) 社会保障給付費 6) 社会保障制度改革 7) 地域包括ケアシステム 8) マイナンバー制度 2. 社会保険制度 1) 社会保険の変遷 (1)目的 機能 (2)国民皆保険・皆年金 2) 医療保険制度 (1)健康保険、国民健康保険と高齢者の医療制度 (2)保険給付と利用者負担 (3)医療保険の財政 (4)保険診療の仕組み (5)公費負担医療 (6)国民医療費 (7)診療報酬制度 3) 介護保険制度 (1)制度の基本理念 (2)保険者・被保険者 (3)要介護・要支援の認定 (4)保険給付と利用者負担 (5)ケアマネジメント (6)介護サービス 4) 年金制度 (1)制度の体系 (2)給付と費用負担 5) その他の社会保険制度 (1)雇用保険 (2)労働者災害補償保険法				
設 定 理 由	社会保障に関する制度や施策、動向について理解し、社会資源の活用として役立たせるために設定した。				
テ キ ス ト	社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度3 (医学書院)				
参 考 図 書					
評 価	筆記試験 100点				

授 業 科 目	社会福祉Ⅱ	講師名	中川 雄介(病院で社会福祉士として実務経験有)		
開 講 時 期	2年次 前期	単位・時間	1単位 15時間	回数	講義7回 評価1回
目 標	1. 社会福祉の理念を理解し、自立した生活を送れるよう具体的な福祉サービスを理解する。				
内 容	<p>1. 社会福祉諸法の理念と施策</p> <p>1) 社会福祉の理念と変遷</p> <p>(1)社会福祉基礎構造改革と社会福祉法</p> <p>(2)措置制度から選択、利用制度へ</p> <p>(3)利用者保護の制度</p> <p>2) 障害者(児)への施策</p> <p>(1)障害者基本法</p> <p>(2)障害者総合支援法</p> <p>(3)身体障害者福祉法</p> <p>(4)知的障害者福祉法</p> <p>(5)精神保健および精神障害者の福祉に関する法律</p> <p>(6)発達障害者支援法</p> <p>(7)障害者虐待の防止・障害者の養護者に対する支援等に関する法律</p> <p>3) 児童への施策</p> <p>(1)児童福祉法</p> <p>(2)児童虐待の防止に関する法律</p> <p>(3)母子及び寡婦福祉法</p> <p>4) 高齢者への対策</p> <p>(1)老人福祉法</p> <p>(2)高齢者虐待の防止・高齢者の養護者に対する支援等に関する法律</p> <p>5) その他の施策</p> <p>(1)配偶者からの暴力及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)</p> <p>2. 社会福祉行政</p> <p>1) 保健福祉計画</p> <p>(1)子供・子育て応援プラン</p> <p>(2)障害者基本計画と障害者プラン</p> <p>2) 社会福祉の民間活用</p> <p>(1)民生委員・児童委員</p> <p>(2)社会福祉協議会</p> <p>(3)ボランティア活動</p> <p>(4)特定非営利活動促進法(NPO法)</p> <p>3) 社会福祉に関わる機関</p> <p>(1)福祉事務所</p> <p>(2)更生相談所</p> <p>(3)児童相談所</p> <p>(4)社会福祉施設</p> <p>(5)在宅サービス機関</p>				
設 定 理 由	社会福祉に関する制度や施策、動向について理解し、社会資源の活用として役立たせるために設定した。				
テ キ ス ト	社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度3 (医学書院)				
参 考 図 書					
評 価	筆記試験 100点				

授 業 科 目	保健医療論	講師名	内田 日登美(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	2年次 後期	単 位・時 間	1単位 15時間	回 数	講義2回 演習5回 評価1回
目 標	1. 変遷する保健医療システム構造と問題を理解する。				
内 容	1. 保健と疾病・障害と保健医療のありかた 1) 保健医療と看護の歴史 2) 関係する職種の役割の理解 3) 保健医療のありかた 2. 保健医療・看護に関する法と倫理・経済論 1) 医療倫理 2) ノーマライゼーション 3) 情報公開 4) 保健医療・看護の経済論 3. 現在の看護とその課題・これから保健医療と看護 1) 看護業務 2) これからの看護の課題				
設 定 理 由	保健医療の大きな流れを知り、その全体的な視野の育成をするために設定した。				
テ キ ス ト					
参 考 図 書					
評 価	筆記試験 100点				

授 業 科 目	看護と法律	講師名	松村 耕平		
開 講 時 期	3年次 後期	単位・時間	1単位 15時間	回数	講義7回 評価1回
目 標	1. 看護を取り巻くさまざまな法律を理解する。				
内 容	1. 法規の概念 1) 法規 2) 厚生行政のしくみ 2. 保健師助産師看護師法 1) 目的・定義 2) 免許 3) 業務 4) 守秘義務 3. 医療関係法規 1) 医療法 2) 医師法 3) 薬剤師法 4) 診療放射線技師法 5) 臨床検査技師等に関する法律 6) 理学療法士及び作業療法士法、言語聴覚士法 7) 社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法 4. 医療サービス供給体制 1) 医療計画 2) 医療施設の機能 3) 救急医療の充実 4) 診療記録・情報公開 5) 在宅医療 6) 訪問看護ステーション 7) 助産所 8) 医薬品と医療用具の取り扱い 9) 毒薬・劇薬の取り扱い 10) 安全管理(セーフティマネジメント) 5. 看護職と関係法規 1) 労働基準法 2) 休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律(育児・介護休業法) 3) 看護師の人材確保の促進に関する法律 6. さまざまな法改正の動向				
設 定 理 由	看護の機能・役割に関する基本的な法規について学び、看護師としての役割遂行に役立たせるために設定した。				
テ キ ス ト	看護関係法令 健康支援と社会保障制度4 (医学書院)				
参 考 図 書					
評 価	筆記試験 100点				

授 業 科 目	基礎看護学概論	講師名	内田 日登美(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	1年次 前期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義10回 演習5回 評価1回
目 標	1. 看護の歴史や基本概念、および看護の果たす役割について理解する。				
内 容	<p>1. 看護の基本となる概念</p> <p>1) 看護の本質</p> <p>(1)看護の定義</p> <p>(2)役割と機能</p> <p>(3)看護の変遷</p> <p>2) 看護の対象としての人間</p> <p>(1)全体としての人間</p> <p>(2)成長発達する存在・ライフサイクルと発達課題</p> <p>(3)ニーズをもつ存在</p> <p>(4)社会・文化的存在</p> <p>(5)生活者としての存在</p> <p>(6)適応する存在</p> <p>3) 健康と生活</p> <p>(1)健康のとらえ方</p> <p>(2)健康の諸相</p> <p>(3)健康の影響要因</p> <p>(4)生活習慣とセルフケア</p> <p>(5)QOL</p> <p>4) 看護における倫理</p> <p>(1)基本的人権、世界人権宣言、個人の尊厳</p> <p>(2)倫理原則、職業倫理</p> <p>(3)患者の権利と擁護</p> <p>(4)説明責任</p> <p>(5)倫理的葛藤と対応</p> <p>2. 看護の展開</p> <p>1) 対象との関係の形成</p> <p>(1)信頼関係</p> <p>(2)援助関係</p> <p>2) 根拠に基づく実践</p> <p>(1)根拠に基づいた看護(EBN)の概念</p> <p>(2)クリティカルシンキング</p> <p>(3)問題解決過程</p> <p>3) 看護における連携と協働</p> <p>(1)看護職間の連携と協働</p> <p>(2)多職種間の連携と協働</p> <p>(3)チームでの活動</p>				

内 容	<p>3. 看護の役割と機能を支える仕組み</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護活動の場と専門分化 <ol style="list-style-type: none"> (1)地域・在宅における看護活動 (2)医療施設における看護活動 (3)保健福祉施設における看護活動 (4)チーム医療における看護職の役割・活動 (5)看護職の各種資格と活動 2) 継続看護 <ol style="list-style-type: none"> (1)施設内における継続 (2)施設間継続 (3)施設と在宅間での継続 (4)経時的変化に対する継続看護 3) 看護制度、看護行政 <ol style="list-style-type: none"> (1)看護制度の変遷 (2)看護教育制度の変遷 (3)看護行政の組織 (4)看護にかかわる診療報酬 (5)看護職員の確保・ナースセンター (6)看護職員の労働環境
設 定 理 由	看護の対象としての人間を理解し、看護、環境、健康の概念をとらえ、看護の歴史的変遷を理解するために設定した。
テ キ ス ト	看護学概論(医学書院), よくわかる看護職の倫理綱領(照林社)
参 考 図 書	
評 価	筆記試験 100点
主な関連科目	人間関係論、教育学、社会学、論理学、哲学 I・II、生活と文化、保健医療論

授 業 科 目	基礎看護学援助論 I	講師名	小池 朝子(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	1年次 前期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義15回 評価1回
目 標	1. 看護技術の概念を理解し、安全安楽、記録報告、コミュニケーション、指導技術を習得する				
内 容	1. 看護の展開 <ul style="list-style-type: none"> 1) 信頼関係の構築 (詳細は人間関係論にて) <ul style="list-style-type: none"> (1)援助的人間関係 (2)傾聴、共感 (3)患者・利用者・家族との協同 (4)目標の共有 2) 問題解決過程 (詳細は援助論IVにて) <ul style="list-style-type: none"> (1)看護過程・看護診断の概念 (2)看護過程の構成要素 (3)看護理論と看護過程 3) 看護実践過程 <ul style="list-style-type: none"> (1)根拠に基づいた看護 (2)クリティカルシンキング (3)リフレクション (4)チームカンファレンス (5)情報の開示と患者参加の促進 (6)対象者への説明と同意の確認 (7)看護の安全な実施と対象者の反応の確認 2. 共通技術 <ul style="list-style-type: none"> 1) コミュニケーションの技術 <ul style="list-style-type: none"> (1)コミュニケーションの構造・種類 (2)グループワークの基礎知識 (3)看護面接技術 (4)コミュニケーションに障害のある人々への対応 2) 教育指導の技術 <ul style="list-style-type: none"> (1)教育指導のプロセス (2)対象者に合わせた指導方法と媒体の工夫 (3)個別指導・集団指導の特性、適用、メリット・デメリット (4)入院・退院時の援助 3) 安全・安楽(誤薬・誤認・誤嚥・窒息の防止を含む) <ul style="list-style-type: none"> (1)看護における安全とは (2)看護における安楽とは (3)療養環境 (4)医療安全対策 (5)院内感染防止対策 4) 記録・報告(情報管理、情報伝達と共有・管理を含む) <ul style="list-style-type: none"> (1)記録・報告の目的 (2)記録の種類 (3)記録・報告の条件 				
設 定 理 由	看護を実践するための基礎であり、さまざまな看護活動に共通する基本的看護技術を理解するために設定した。				
テ キ ス ト	看護学概論(医学書院), 基礎看護技術(メディカ出版)				
参 考 図 書					
評 価	筆記試験 100点				
主 な 関 連 科 目	論理学、心理学、人間関係論、教育学、社会学、生活と文化				

授 業 科 目	基礎看護学援助論Ⅱ	講師名	鈴木 春香(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	1年次 前期	単位・時間	1単位 15時間	回数	講義4回 演習2回 評価2回
目 標	1. 看護におけるフィジカルアセスメントの概念と目的、必要性を理解できる。 2. 体温測定・脈拍測定・呼吸測定・血圧測定の必要性を理解し、基本技術が習得できる。				
内 容	1. ヘルスアセスメントの総論 1) ヘルスアセスメントとはなにか 2) フィジカルアセスメントとはなにか 3) フィジカルアセスメントの意義・目的 2. フィジカルアセスメントの基本技術 1)問診・インタビュー 2)身体診察(視診・触診・聴診・打診)の基本 3. バイタルサイン 1) バイタルサインとは 2) バイタルサインとは測定の意義 4. 体温測定 1) 体温とは 2) 体温調節のメカニズムと影響因子 3) 体温の正常と異常 4) 体温測定の方法 5. 脈拍測定 1) 脈拍とは 2) 脈拍調節のメカニズムと影響因子 3) 脈拍の正常と異常 4) 脈拍測定の方法 6. 呼吸測定 1) 呼吸とは 2) 呼吸調節のメカニズムと影響因子 3) 呼吸の正常と異常 4) 呼吸測定の方法 7. 血圧測定 1) 血圧とは 2) 血圧調節のメカニズムと影響因子 3) 血圧の正常と異常 4) 血圧測定の方法 8. 演習項目 1) バイタルサインの測定				
設 定 理 由	看護の基本となる観察力、判断力、実践力を養うために設定した。				
テ キ ス ト	基礎看護技術Ⅰ(メディカ出版), フィジカルアセスメント・ガイドブック(医学書院)				
参 考 図 書	わかる!使える!バイタルサイン・フィジカルアセスメント(照林社)				
評 価	筆記試験 70点・技術試験 30点				
主 な 関 連 科 目	基礎看護学概論、形態機能疾病論Ⅰ～Ⅵ				

授 業 科 目	基礎看護学援助論Ⅲ	講師名	大平 久美子(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	1年次 後期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義11回 演習4回 評価1回
目 標	1. 系統別フィジカルアセスメントを理解できる。 2. 臨床の看護ケアに活かすためのフィジカルアセスメントを理解できる。				
内 容	1. 看護に活かすフィジカルアセスメント 1) 「生きている」機能と「生きていく」機能 2) 体表解剖 2. 系統別フィジカルアセスメント 1) 呼吸系のアセスメント 2) 循環系のアセスメント 3) 消化系のアセスメント 4) 感覚系のアセスメント 5) 神経系のアセスメント 6) 運動系のアセスメント 3. 演習項目 1) フィジカルアセスメント技術 (1)呼吸器系のフィジカルアセスメント(胸部の問診、視診、呼吸音の聴診) (2)循環器系のフィジカルアセスメント(循環器系の問診、視診、心音の聴診) (3)消化器系のフィジカルアセスメント(腹部の問診、視診、聴診、打診、触診) (4)神経系のフィジカルアセスメント (意識レベルの評価、瞳孔・対光反射の観察) 4. 事例展開 1) 呼吸器系のフィジカルアセスメント実際 2) 消化器系のフィジカルアセスメント実際				
設 定 理 由	看護の基本となる観察力、判断力、実践力を養うために設定した。				
テ キ ス ト	基礎看護技術 I (メディカ出版), フィジカルアセスメント・ガイドブック(医学書院)				
参 考 図 書	わかる! 使える! バイタルサイン・フィジカルアセスメント(照林社)				
評 価	筆記試験 100点				
主 な 関 連 科 目	基礎看護学概論、形態機能疾病論 I ~ VI				

授 業 科 目	基礎看護学援助論Ⅳ	講師名	小池 朝子(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	1年次 後期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義7回 演習8回 評価1回
目 標	1. 看護の対象としての人間を理解し、看護を科学的に展開するための思考過程を習得する。				
内 容	1. 看護過程の概念 1) 看護過程の定義 2) 看護過程と問題解決法 3) 看護過程とクリティカルシンキング 4) 看護過程と看護理論 2. 看護過程の構成要素 1) アセスメント(情報の種類、収集方法と分析・解釈の統合) 2) 看護問題の明確化、関連図 3) 計画(優先順位の決定、目標の設定、具体策) 4) 実施 5) 評価 3. 事例展開の演習				
設 定 理 由	看護問題を科学的な根拠を持ち解決するために、アセスメント・問題の明確化・計画・実施・評価の方法を理解するために設定した。				
テ キ ス ト	基礎看護技術Ⅰ(メディカ出版)				
参 考 図 書	看護の基本となるもの(日本看護協会出版会), 患者さんの情報収集ガイドブック(メヂカルフレンド社)				
評 価	筆記試験 100点				
主 な 関 連 科 目	論理学、基礎看護学概論、基礎看護学援助論Ⅰ				

授 業 科 目	基礎看護学援助論V	講師名	上遠野 純子(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	1年次 前期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義9回 演習6回 評価1回
目 標	1. 日常生活の環境、安楽、活動・休息、滅菌・消毒の意義を理解しその援助技術を習得する。				
内 容	1. 環境を整える技術 1) 療養環境のアセスメント 2) 療養環境の調整と整備 2. 安楽確保の技術 1) ボディメカニクスの原理と看護実践への活用 2) 体位の種類と身体への影響、安楽な姿勢・体位の特徴 3) 安楽を提供するためのケア 4) 安楽を保つための療養環境の調整 3. 活動・休息の援助 1) 活動と運動に影響する要因 2) 活動と運動のアセスメント 3) 活動と運動を促す援助 (1)体位変換 (2)床上運動 (3)車椅子、ストレッチャーへの移乗・移送 (4)廃用症候群の予防 4) 休息と睡眠に影響する要因 5) 休息と睡眠のアセスメント 6) 休息と睡眠を促す援助 4. 感染予防の技術 1) 感染の成立と予防 2) 標準予防策と感染経路別予防策 3) 手洗い、消毒、滅菌法、無菌操作 4) 感染性廃棄物の取り扱い 5) 感染拡大の防止の対応 5. 演習項目 1) 快適な療養環境の整備(4時間) 2) 臥床患者のリネン交換、体位変換・保持(4時間) 3) 車椅子での移送、移乗介助、ストレッチャー移送、歩行・移動の介助 4) 安全な療養環境の整備(転倒・転落・外傷予防) 5) 標準予防策に基づく手洗い、必要な防護用具の選択・着脱、無菌操作				
設 定 理 由	人間にとって健康な生活のための、環境、安楽、活動・休息、消毒・滅菌の重要性について学び、その援助方法を理解するために設定した。				
テ キ ス ト	基礎看護技術Ⅱ(メディカ出版)、 演習・実習に役立つ基礎看護技術(ヌーベルヒロカワ)				
参 考 図 書					
評 価	筆記試験 100点				
主 な 関 連 科 目	物理学、形態機能疾病論 I				

授 業 科 目	基礎看護学援助論VI	講師名	渡邊 菜摘(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	1年次 前期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義8回 演習7回 評価1回
目 標	1. 食事・栄養の意義を理解し、その援助技術を習得する。 2. 排泄の意義を理解し、その援助技術を習得する。				
内 容	1. 食生活の援助技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) 食事栄養の意義 2) 健康な食生活と食事摂取基準・治療食・療養食 3) 食事・栄養摂取に影響する要因 4) 食事・栄養状態のアセスメント 5) 食事摂取の自立困難な患者の援助 6) 嚥下障害のある患者の援助 7) 経管栄養法 8) 経静脈栄養法 2. 排泄の援助技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) 排泄の意義 2) 排泄に影響する要因 3) 排泄のアセスメント 4) 自然な排便・排尿を促す援助方法 5) トイレ歩行・ポータブルトイレでの排泄の援助方法 6) 床上での排泄の援助 7) 浣腸・摘便 8) 膀胱留置カテーテルの挿入と管理 9) 尿失禁・便失禁の種類と援助方法 3. 演習項目 <ol style="list-style-type: none"> 1) 食事介助(嚥下障害のある患者を除く) 2) 経鼻胃チューブの挿入・経管栄養法による流動食の注入 3) 膀胱留置カテーテルの挿入・管理、浣腸、摘便、坐薬の投与 				
設 定 理 由	人間にとって健康な生活のための食事・排泄の重要性について学び、健康が障害された人の食事・排泄を整えるための援助方法を理解するために設定した。				
テ キ ス ト	基礎看護技術Ⅱ(メディカ出版), 演習・実習に役立つ基礎看護技術(ヌーベルヒロカワ)				
参 考 図 書	看護技術ベーシックス(医学芸術社), 病症別看護ケア関連図(中央法規)				
評 価	筆記試験 100点				
主 な 関 連 科 目	形態機能疾病論Ⅲ				

授 業 科 目	基礎看護学援助論Ⅶ	講師名	石名坂 豊子(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	1年次 前期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義7回 演習9回 評価1回
目 標	1. 衣生活・清潔の意義を理解し、その援助技術を習得する。				
内 容	1. 清潔・衣生活の援助技術 1) 清潔・衣生活の意義 2) 清潔行動に影響する要因とアセスメント 3) 身体各部の清潔の援助方法(整容・入浴・部分浴・陰部洗浄を含む) 4) 清潔行動・衣生活の自立に応じた援助 2. 演習項目 1) 点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換、点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換 2) 全身清拭 3) 洗髪 4) 足浴・手浴、口腔ケア、整容				
設 定 理 由	清潔保持が必要な対象を知り、身体清潔保持のための援助方法について理解するために設定した。				
テ キ ス ト	基礎看護技術Ⅱ(メディカ出版), 演習・実習に役立つ基礎看護技術(ヌーベルヒロカワ)				
参 考 図 書					
評 価	筆記試験 100点				
主 な 関 連 科 目	形態機能疾病論Ⅳ				

授 業 科 目	基礎看護学援助論Ⅷ	講師名	石名坂 豊子(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	1年次 後期	単位・時間	1単位 15時間	回数	講義4回 演習3回 評価1回
目 標	1. 診断・治療の意義、目的を理解し、診療を受ける対象の検査・創傷管理の援助技術を習得する。				
内 容	1. 生体機能管理技術 1) 診察・検査の意義 2) 身体計測 3) 診察・検査時の看護師の役割 4) 検体検査と尿、便、喀痰、血液の採取方法 5) 生体検査 X線検査、CT検査、心電図検査 超音波検査、核医学検査、基礎代謝検査、呼吸機能検査 6) ME機器の取り扱いとモニタリング 7) 経皮的動脈血酸素飽和度(SPO2)の測定・血糖測定 2. 創傷管理技術 1) 創傷の種類・治癒過程と観察 2) 創傷のアセスメント 3) 褥瘡の予防と治癒の促進 4) ドレッシング・包帯法 3. 演習項目 1) 静脈血の採血、検体(尿・血液等)の取り扱い 2) 創傷処置(創洗浄、創保護、包帯法)				
設 定 理 由	診断・治療を受ける対象を知り、診療時の検査・創傷管理の援助方法を理解するために設定した。				
テ キ ス ト	基礎看護技術Ⅱ(メディカ出版), 演習・実習に役立つ基礎看護技術(ヌーベルヒロカワ)				
参 考 図 書					
評 価	筆記試験 100点				
主 な 関 連 科 目	診断治療論Ⅰ				

授 業 科 目	基礎看護学援助論IX	講師名	渡邊 菜摘(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	1年次 後期	単 位・時 間	1単位 30時間	回 数	講義9回 演習6回 評価1回
目 標	1. 診断・治療を受ける対象の与薬・穿刺・洗浄などの援助技術を習得する。				
内 容	1. 治療・処置における看護師の役割 1) 治療・処置の種類 2) 治療・処置における看護師の役割 2. 呼吸・循環を整える技術 1) 呼吸を楽にする姿勢・呼吸法 2) 酸素吸入の適応と方法 3) 口腔内・鼻腔内・気管内吸引の適応と方法 4) 排痰法の適応と方法 5) 体温調節のための方法 (罨法の種類と適応) 3. 与薬の技術 1) 与薬における看護師の役割 2) 薬剤の種類と取扱い方法 3) 与薬の方法と観察 4) 輸液・輸血の種類と取扱い方法 5) 副作用の観察 6) 与薬における安全管理 4. 穿刺・洗浄 1) 穿刺(胸腔穿刺、腹腔穿刺、骨髄穿刺、腰椎穿刺) 2) 洗浄(胃洗浄、膀胱洗浄) 5. 演習項目 1) 体温調節の援助(冷罨法)、酸素吸入・酸素ポンベの取り扱い、口腔内吸引・鼻腔内吸引・気管内吸引 2) 注射の準備・注射器の取り扱い 3) 皮下注射・筋肉注射 4) 静脈路確保、点滴静脈内注射・管理、輸液ポンプ操作・管理				
設 定 理 由	診療時の与薬・穿刺・洗浄などの援助方法を理解するために設定した。				
テ キ ス ト	基礎看護技術Ⅱ(メディカ出版)、演習・実習に役立つ基礎看護技術(ヌーベルヒロカワ)				
参 考 図 書	看護過程に沿った対症看護(学研)				
評 価	筆記試験 100点				
主 な 関 連 科 目	形態機能疾病論Ⅱ、診断治療論Ⅰ、薬理学、基礎看護学援助論Ⅱ・Ⅲ				

授 業 科 目	基礎看護学演習 I	講師名	小池 朝子(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	1年次 後期	単位・時間	1単位 15時間	回数	講義2回 演習3回 評価3回
目 標	1. 基礎看護技術を確実に習得する。				
内 容	1. 基礎看護技術のまとめ				
設 定 理 由	実習や臨床にむけて確実な看護技術の習得を目ざすために設定した。				
テ キ ス ト	演習・実習に役立つ基礎看護技術(ヌーベルヒロカワ)、基礎看護技術 I・II (メディカ出版)				
参 考 図 書					
評 価	実技試験 100点				
主 な 関 連 科 目	基礎看護学援助論 I～VIII				

授 業 科 目	基礎看護学演習Ⅱ	講師名	鈴木 典子(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	3年次 前期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義1回 演習12回 評価3回
目 標	1. 科学的に看護を追求する姿勢を養い、自己の看護観を深める。				
内 容	1. ケーススタディのまとめ				
設 定 理 由	自己の看護体験を振りかえることで、専門職業人として実践した看護を探求する姿勢を養うために設定した。				
テ キ ス ト	看護研究(メディカ出版)				
参 考 図 書					
評 価	筆記試験 100点				
主 な 関 連 科 目	情報科学、看護情報学				

授 業 科 目	地域・在宅看護概論 I	講師名	猪股 善也(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	1年次 後期	単 位・時 間	1単位 15時間	回 数	講義7回 評価1回
目 標	1. 在宅看護の目的と機能・役割について理解する。 2. 在宅療養者およびその家族を生活者として理解する。				
内 容	1. 在宅看護が必要とされる社会的背景 1) 人口構成の変化 2) 国民の価値観 3) 疾病構造の変化 4) 地域包括ケアのさらなる推進 2. 在宅看護の対象者 1) 疾病や障害をもつ療養者 2) 家族・家族介護者の療養支援 3. 対象者の生活 1) 生活の場の種類 2) 生活様式と価値観 4. 在宅看護の役割・特徴 1) 自立・自立支援 2) 病状・病態の予測と予防 3) リスクマネジメント				
設 定 理 由	在宅看護の対象者をさまざまなライフステージにある生活者として、および在宅看護の特徴を学ぶために設定した。				
テ キ ス ト	地域療養を支えるケア 地域・在宅看護論(メディカ出版)				
参 考 図 書	国民衛生の動向				
評 価	筆記試験 100点				
主 な 関 連 科 目	基礎看護学概論、公衆衛生 I・II、社会福祉 I・II、看護と法律				

授 業 科 目	地域・在宅看護概論Ⅱ	講師名	猪股 善也(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	2年次 前期	単 位・時 間	1単位 15時間	回 数	講義7回 評価1回
目 標	1. 在宅看護の実際、および訪問看護のしくみについて理解する。 2. 社会資源の活用、および多職種との連携における看護師の役割について理解する。				
内 容	1. 在宅看護の実際 1) 退院支援・退院調整 2) 外来看護 3) 訪問看護 4) 通所施設での看護 2. チームケアの理解 1) 地域包括ケアシステム 2) チームケアの意義 3) 多職種との連携・協働 4) 在宅ケアチームの実際の理解 5) 在宅ケアチームにおける看護の役割の理解 3. ケアマネジメントと看護の役割 1) ケアマネジメント・ケースマネジメントの概念・過程・実際 2) 社会資源の理解と活用 4. 在宅看護における倫理的課題 1) 自己決定支援 2) 権利擁護・成年後見制度 3) サービス提供者の権利擁護 4) 虐待防止 5) 情報管理 5. 訪問看護制度の成り立ち 1) 訪問看護の歴史 2) 訪問看護の課題 6. 訪問看護の法的枠組み 1) 高齢者の医療の関係法規 2) 健康保険法 3) 介護保険法 4) 障害者総合支援法 5) その他関係法規 7. 訪問看護ステーションの仕組みと利用 1) 訪問看護ステーションの開設基準 2) サービス開始までの流れ 3) 看護サービス提供方法				
設 定 理 由	在宅看護の実際やさらにチームケアにおける看護師の役割を学ぶために設定した。				
テ キ ス ト	地域療養を支えるケア 地域・在宅看護論(メディカ出版)				
参 考 図 書	国民衛生の動向				
評 価	筆記試験 100点				
主 な 関 連 科 目	基礎看護学概論、公衆衛生Ⅰ・Ⅱ、社会福祉Ⅰ・Ⅱ、看護と法律				

授 業 科 目	地域・在宅看護援助論 I	講師名	猪股 善也(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	2年次 前期	単位・時間	1単位 15時間	回数	講義7回 演習1回 評価1回
目 標	1. 在宅看護を展開するための基本的な援助方法を理解する。				
内 容	1. 食事・栄養 <ul style="list-style-type: none"> 1) 食事摂取能力のアセスメント 2) 摂食・嚥下能力障害時のアセスメント 3) 嚥下障害時の援助 4) 栄養補助食品の種類と選択方法 5) 口腔ケア 6) 胃瘻 7) 中心静脈栄養法 2. 排泄 <ul style="list-style-type: none"> 1) 排泄障害のアセスメント 2) 排泄補助用具の種類と選択方法 3) 尿失禁の予防と援助 4) 便失禁への援助 5) 便秘の予防と援助 6) 膀胱留置カテーテル法 7) ストーマケア 3. 清潔 <ul style="list-style-type: none"> 1) 清潔のアセスメント 2) 在宅で実施する清潔方法の種類と方法 3) 清潔ケアの社会資源の活用 4. 演習項目 <ul style="list-style-type: none"> 1) 入浴・シャワー浴の介助 5. 移動 <ul style="list-style-type: none"> 1) 日常生活動作(ADL)、手段的日常生活動作(IADL)のアセスメント 2) 移動時の安全確保 3) 住居環境のアセスメント 4) 移動補助用具の種類と選択方法 6. 呼吸 <ul style="list-style-type: none"> 1) 酸素療法 2) 人工呼吸療法(非侵襲的換気療法を含む) 				

内 容	<p>7. 薬物療法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 服薬状況の把握 2) 医師および薬剤師との連携 3) 外来通院中の在宅療養者に対するケア(麻薬投与・外来化学療法) <p>8. 生活の中で必要となる安全管理</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 転倒・転落の防止 2) 誤嚥・窒息の防止 3) 熱傷の防止 4) 熱中症の防止 5) 閉じこもりの防止 6) 独居高齢者等と火災予防
設 定 理 由	在宅看護の特徴をふまえて看護展開できる援助技術を学ぶために設定した。
テ キ ス ト	地域療養を支えるケア 地域・在宅看護論(メディカ出版)
参 考 図 書	
評 価	筆記試験 100点
主な関連科目	基礎看護学援助論Ⅱ～Ⅷ

授 業 科 目	地域・在宅看護援助論Ⅱ	講師名	猪股 善也(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	2年次 後期	単 位 ・ 時 間	1単位 15時間	回 数	講義6回 演習1回 評価1回
目 標	1. 事例から対象に必要な看護援助を理解する。				
内 容	1. アセスメント 2. 問題の明確化 3. 計画 4. 訪問時のプロセスのシミュレーション (褥瘡予防の視点も含む) 5. 演習項目 1) 褥瘡予防				
設 定 理 由	対象に必要な看護援助の計画を予測と予防の視点で考えられるように設定した。				
テ キ ス ト	地域療養を支えるケア 地域・在宅看護論(メディカ出版)				
参 考 図 書					
評 価	筆記試験 100点				
主 な 関 連 科 目	基礎看護学援助論Ⅳ、地域・在宅看護概論Ⅰ・Ⅱ、地域・在宅看護援助論Ⅰ、地域・在宅看護論演習				

授 業 科 目	地域・在宅看護援助論Ⅲ	講師名	猪股 善也(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	2年次 後期	単 位 ・ 時 間	1単位 15時間	回 数	講義5回 演習3回 評価2回
目 標	1. 訪問時のマナーを意識し看護援助の実際を体験できる。				
内 容	1. 生活の場を想定した看護援助の実施 2. 褥瘡予防ケア、処置 3. 実施の評価 4. 訪問時のマナー 5. コミュニケーション能力のアセスメント				
設 定 理 由	訪問時のマナーと訪問看護の実際をロールプレイングを用いて学ぶために設定した。				
テ キ ス ト	地域療養を支えるケア 地域・在宅看護論(メディカ出版)				
参 考 図 書					
評 価	筆記試験 100点				
主 な 関 連 科 目	基礎看護学援助論Ⅳ、地域・在宅看護概論Ⅰ・Ⅱ、地域・在宅看護援助論Ⅰ、地域・在宅看護論演習				

授 業 科 目	地域・在宅看護援助論Ⅳ	講師名	佐藤 奈央(病院で保健師として実務経験有)		
開 講 時 期	3年次 前期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義5回 演習10回 評価1回
目 標	1. さまざまなライフステージ・状況にある在宅療養者(児)の看護展開が理解できる。				
内 容	1. 生活自立困難者 1) 障害のある独居療養者のアセスメント 2) 社会資源の活用 3) ケアプラン作成、利用料 2. 慢性期の療養者 1) 症状アセスメント 2) 急性増悪の早期発見と対応 3. 終末期の療養者 1) 症状マネジメント 2) 緩和ケアの実際 3) 看取りの看護 4) 家族へのグリーフケア 4. 精神障害者 1) 症状アセスメント 2) 症状への対応と服薬管理 5. 地域で生活する療養児 1) 療養児と家族の発達のアセスメント 2) 発達に応じた対応 3) 社会資源の活用				
設 定 理 由	さまざまなライフステージ・状況にある臨場感に即した在宅療養者(児)の事例を用いて視聴覚教材を活用しながら学習し、看護過程の展開能力を養うために設定した。				
テ キ ス ト	地域療養を支えるケア 地域・在宅看護論(メディカ出版)				
参 考 図 書					
評 価	筆記試験 100点				
主 な 関 連 科 目	基礎看護学援助論Ⅳ、地域・在宅看護概論Ⅰ・Ⅱ、地域・在宅看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、地域・在宅看護論				

授 業 科 目	地域・在宅看護論演習	講師名	佐藤 奈央(病院で保健師として実務経験有)		
開 講 時 期	1年次 後期	単 位・時 間	1単位 15時間	回 数	講義1回 演習6回 評価1回
目 標	1. 地域でその人らしい生活を営むために安全性、快適性、自立のための支援の必要性を知ることができる。				
内 容	1. 地域の特性の理解 1) 人口動態 2) 地域で暮らす人々を取り巻く環境 2. 対象者の生活状況を知る 1) 日々の生活の中での楽しみ、張り合い 2) 不便さ、不自由さ 3. 対象者の生活を支えている環境について知る				
設 定 理 由	地域の特性や対象を取り巻く環境を理解し、住み慣れた地域でその人らしく生活するための暮らしを知るために設定した。				
テ キ ス ト	地域療養を支えるケア 地域・在宅看護論(メディカ出版)				
参 考 図 書					
評 価	筆記試験 100点				
主 な 関 連 科 目	生活と文化、基礎看護学概論、地域・在宅看護概論 I				

授 業 科 目	成人看護学概論 I	講師名	佐藤 奈央(病院で保健師として実務経験有)		
開 講 時 期	1年次 後期	単位・時間	1単位 15時間	回数	講義7回 評価1回
目 標	1. 成人期における対象の理解と看護の機能・役割について理解する。 2. 成人の生活と健康問題を理解し、健康の保持・増進を図るため看護活動について理解する。				
内 容	1. 成人の特徴 1) 生涯発達の特徴 (1)青年期の身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな特徴 (2)壮年期の身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな特徴 (3)向老期の身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな特徴 (4)ライフサイクルにおける発達課題 2) 成人と生活 (1)家族形態と機能 (2)社会生活の変化と成人の生活 2. 成人に特有な健康問題の特徴 1) 生活習慣に関連する健康問題 (1)生活習慣病の発生因子と予防 (2)生活習慣病の発生状況 2) 職業に関連する健康問題 (1)就労条件・環境と病気 (2)職業病の発生状況と予防 3) 生活ストレスに関連する健康問題 (1)生活ストレスと健康問題 (2)ストレス関連疾患の発生状況 (3)ストレス対処方法				
設 定 理 由	既に学んだ形態機能疾病論を基礎知識とし、多様な社会的役割を担う成人期にある対象の生活を総合的に学び、健康の保持・増進を図るための看護活動を理解する。また、成人期に起こし易い疾病・障害の特徴を踏まえ、対象の健康問題をアセスメントし健康レベルに応じた看護活動と今後の課題について理解するために設定した。				
テ キ ス ト	成人看護学総論(医学書院)				
参 考 図 書					
評 価	筆記試験 100点				
主 な 関 連 科 目	形態機能総論、形態機能疾病論Ⅵ、公衆衛生Ⅰ、公衆衛生Ⅱ、社会福祉Ⅰ、看護と法律 基礎看護学概論				

授 業 科 目	成人看護学概論Ⅱ	講師名	藁谷 優子(病院で看護師として実務経験有) 今泉 昭子(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	1年次 後期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義11回 演習2回 評価1回
目 標	1. 経過別にある対象を理解し、対象とその家族に必要な看護援助を実践できる基礎的知識を理解する。				
内 容	<p>1. 急性期看護</p> <p>1) 急性期にある患者と家族の特徴と看護</p> <p>(1)患者・家族の特徴</p> <p>(2)急性期における看護の基本</p> <p>(3)危機的状況への精神的支援</p> <p>(4)治療の選択・意思決定への支援</p> <p>2) 救急看護・クリティカルケア</p> <p>(1)緊急・重症度アセスメント(意識レベル・神経学的所見)</p> <p>(2)救急看護・クリティカルケアの基本</p> <p>(3)心肺停止状態への対応</p> <p>(4)ショック・外傷・熱傷・中毒症・急性症状の応急処置</p> <p>3) 周手術期にある患者と家族の看護</p> <p>(1)意思決定への援助</p> <p>(2)手術前オリエンテーション</p> <p>(3)不安のアセスメントと援助</p> <p>(4)術後合併症のリスクアセスメントと援助</p> <p>(5)手術方法による影響と援助</p> <p>(6)麻酔・手術体位による影響と援助</p> <p>(7)術中の安全管理</p> <p>(8)生体反応</p> <p>(9)術後の疼痛・創傷・ドレーンの管理</p> <p>(10)術後合併症と予防</p> <p>(11)術後の機能障害、生活制限への看護</p> <p>2. 慢性期看護</p> <p>1) 慢性期にある患者と家族の特徴と看護</p> <p>(1)慢性疾患の特徴と動向</p> <p>(2)慢性疾患をもつ患者と家族の特徴</p> <p>2) 慢性疾患の治療と看護</p> <p>(1)意思決定への支援</p> <p>(2)継続的な支援体制と連携</p> <p>3) セルフケア・自己管理への看護</p> <p>(1)セルフケアの能力と行動のアセスメント</p> <p>(2)セルフケアに影響する要因</p> <p>(3)自己管理支援・生活調整支援</p> <p>4) 社会的支援の獲得への援助</p> <p>(1)患者と家族の抱える問題</p> <p>(2)退院調整と多職種連携</p> <p>(3)医療費助成制度</p>				

内 容	<p>3. リハビリテーション看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) リハビリテーションの特徴と看護 <ol style="list-style-type: none"> (1)リハビリテーションにおける看護の役割 (2)生活機能障害と日常生活動作 (3)国際生活機能分類<ICF>の概念 2) 障害に対する受容と適応への援助 <ol style="list-style-type: none"> (1)廃用症候群 (2)代償機能の獲得(活動促進に向けた支援、補助具・自助具の活用) (3)心理的葛藤への援助 3) チームアプローチと社会資源の活用 4) 社会参加への援助 <ol style="list-style-type: none"> (1)職場調整 (2)社会参加を促す要素と影響因子 <p>4. がん看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) がん患者と家族への看護 <ol style="list-style-type: none"> (1)がん患者の抱える苦痛(身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな苦痛) 2) がん患者の治療と看護 <ol style="list-style-type: none"> (1)手術療法・化学療法・放射線療法・集学的療法 3) がん患者の社会参加への支援 <p>5. 終末期看護(緩和ケアを含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 終末期にある患者への援助(エンド・オブ・ライフ・ケア) <ol style="list-style-type: none"> (1)全人的苦痛のアセスメントと苦痛軽減への援助 (2)意思決定への支援 (3)予測的悲嘆に対するケア (4)家族ケア (5)ホスピス病棟見学 2) 臨死期の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1)身体的・精神的ケア (2)代理意思決定支援 (3)脳死状態への対応 3) 終末時におけるケア <ol style="list-style-type: none"> (1)終末時の変化とケア (2)死亡後のケア (3)グリーフケア <p>6. 演習項目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ドレーン類の挿入部の処置 2) 使用した器具の感染防止の取り扱い、感染性廃棄物の取り扱い 3) 救急時の応援要請 4) 一次救命処置(BLS) 5) 止血法の実施
設 定 理 由	既に学んだ形態機能疾病論や基礎看護学をもとに、多様な社会的役割を担う成人期にある対象の疾病や障害の経過別に応じた看護活動を理解するために設定した。
テ キ ス ト	成人看護学総論(医学書院)、臨床外科看護総論(医学書院)
参 考 図 書	成人看護学総論(医学書院)テキストすべて
評 価	筆記試験 100点
主 な 関 連 科 目	形態機能疾病論、基礎学概論、成人看護学概論Ⅰ・Ⅱ 基礎看護学概論

授 業 科 目	成人看護学援助論 I	講師名	渡邊 菜摘(病院で看護師として実務経験有) 大和田 ひかる(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	2年次 前期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義14回 演習1回 評価1回
目 標	1. 運動機能・認知機能・コミュニケーション障害を持つ成人及び家族への看護援助の方法を理解する。				
内 容	1. 運動機能障害のある患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 機能障害のアセスメント <ol style="list-style-type: none"> (1)姿勢機能障害の原因と程度 (2)移動機能障害の原因と程度 (3)作業機能障害の原因と程度 (4)関節可動域障害・筋力低下の原因と程度 2) 症状とその看護 <ol style="list-style-type: none"> (1)姿勢機能障害による症状 (2)移動機能障害による症状 (3)作業機能障害による症状 (4)疼痛(関節痛、筋肉痛、腰痛、坐骨神経痛) 3) 検査を受ける患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1)筋生検 (2)脊髄造影・椎間板造影 (3)膝関節鏡検査・膝関節液検査 (4)関節可動域検査、徒手筋力テスト 4) 治療を受ける患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1)ギプス固定 (2)牽引法 (3)人工関節置換術 (4)ポジショニングの援助 5) 機能障害をもちながら生活する人の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1)関節リウマチの病期に応じた看護 (2)椎間板ヘルニアの病期に応じた看護 (3)脊髄損傷患者の看護 (4)四肢切断後の看護 6) 演習項目 <ol style="list-style-type: none"> (1)自動・他動運動の援助 				

<p style="text-align: center;">内 容</p>	<p>2. 脳・神経機能障害のある患者の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 機能障害のアセスメント <ol style="list-style-type: none"> (1)生命維持活動調節機能障害の原因と程度 (2)運動・感覚機能障害の原因と程度 (3)言語機能障害の原因と程度 (4)高次脳機能障害の原因と程度 (5)脳・神経機能障害がもたらす生命・生活への影響 2) 症状とその看護 <ol style="list-style-type: none"> (1)生命維持活動調節機能障害の症状 (2)運動・感覚機能障害の症状 (3)言語機能障害の症状 (4)高次脳機能障害の症状 3) 検査を受ける患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1)髄液検査 (2)脳血管造影 (3)脳波検査 (4)画像検査(CT、.MRI.) 4) 治療を受ける患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1)開頭術 (2)穿頭術 (3)血管内治療(血栓溶解療法、動脈瘤塞栓術)を受ける患者の援助 (4)脳室ドレナージ術中 (5)脳室-腹腔<V-P>シャント術 (6)低体温療法 5) 機能障害をもちながら生活する人の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1)脳血管障害患者の病期に応じた看護 (2)脳腫瘍患者の病期に応じた看護 (3)小脳疾患患者の病期に応じた看護 (4)脳炎、髄膜炎患者のへの看護 (5)頭部外傷患者の看護 (6)重症筋無力症の患者の看護 (7)Guillain-Barré<ギラン・バレー>症候群をもつ患者の看護 (8)筋萎縮性側索硬化症<ALS>患者の看護 (9)脳死状態にある人の看護
<p>設 定 理 由</p>	<p>既に学んだ基礎的知識を統合し、成人期に起こる運動機能・認知機能・コミュニケーション障害の特徴を学び、障害に応じた看護実践を理解するために設定した。</p>
<p>テ キ ス ト</p>	<p>成人看護学10運動器・7脳神経(医学書院)</p>
<p>参 考 図 書</p>	
<p>評 価</p>	<p>筆記試験 100点</p>
<p>主な関連科目</p>	<p>形態機能疾病論 I、成人看護学概論</p>

授 業 科 目	成人看護学援助論Ⅱ	講師名	大平 久美子(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	2年次 前期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義11回 演習4回 評価1回
目 標	1. 循環機能、呼吸機能に健康障害を持つ成人及び家族への看護援助の方法を理解する。				
内 容	1. 呼吸機能障害のある患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 原因と障害の程度のアセスメントと看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 酸素化障害 (2) 換気障害 (3) 主な症状とその看護 2) 検査を受ける患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 動脈血ガス分析 (2) 呼吸機能検査 (3) 気管支鏡検査 (4) 胸腔穿刺 (5) 肺生検 3) 治療を受ける患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 酸素療法 (2) 侵襲的・非侵襲的陽圧換気 (3) 肺切除術 (4) 胸腔ドレナージ (5) 薬物療法 4) 病期や機能障害に応じた看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 腫瘍 (2) 呼吸器感染症 (3) 慢性閉塞性肺疾患 (4) 気管支喘息 (5) 気胸 5) 演習項目 <ol style="list-style-type: none"> (1) 体位ドレナージ (2) 安楽な体位の調整 (3) ネブライザーを用いた気管内加湿 				

内 容	<p>2. 循環機能障害のある患者の看護</p> <p>1) 原因と障害の程度のアセスメントと看護</p> <p>(1) ポンプ機能障害</p> <p>(2) 刺激伝導障害</p> <p>(3) 主な症状とその看護</p> <p>2) 検査を受ける患者への看護</p> <p>(1) 心電図</p> <p>(2) 心血管超音波</p> <p>(3) 血管造影</p> <p>(4) 心臓カテーテル</p> <p>3) 治療を受ける患者の看護</p> <p>(1) 経皮的冠動脈形成術</p> <p>(2) 冠動脈バイパス術</p> <p>(3) 弁置換術・弁形成術</p> <p>(4) 大動脈内バルーンパンピング</p> <p>(5) ペースメーカー</p> <p>(6) 血栓溶解療法・血栓除去術</p> <p>4) 病期や機能障害に応じた看護</p> <p>(1) 心不全</p> <p>(2) 虚血性心疾患</p> <p>(3) 弁膜症</p> <p>(4) 不整脈</p> <p>(5) 動脈系疾患</p> <p>(6) 静脈系疾患</p> <p>(7) 心筋炎・心膜炎</p> <p>3. 演習項目</p> <p>1) 食事指導</p>
設 定 理 由	既に学んだ基礎的知識を統合し、成人期に起る循環機能、呼吸機能に健康障害の特徴を学び、対象に応じた看護援助を理解するために設定した。
テ キ ス ト	成人看護学2呼吸器・3循環器(医学書院)
参 考 図 書	
評 価	筆記試験 100点
主な関連科目	形態機能疾病論Ⅱ、成人看護学概論

授 業 科 目	成人看護学援助論Ⅲ	講師名	大平 久美子(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	2年次 前期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義14回 演習1回 評価1回
目 標	1. 血液・造血機能、生体防御機構、感覚器に健康障害を持つ成人及び家族への看護援助の方法を理解する。				
内 容	1. 血液・造血機能の障害のある患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 症状とその看護 <ol style="list-style-type: none"> (1)貧血 (2)出血傾向 (3)白血球減少 2) 検査を受ける患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1)骨髄穿刺時の援助 3) 造血器腫瘍患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1)がん化学療法時の看護 (2)放射線療法時の看護 (3)造血幹細胞移植の看護 (4)輸血療法時の看護 (5)白血病患者の看護(悪性リンパ腫含) (7)臓器移植時の倫理的配慮 2. 生体防御機能の障害のある患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 機能障害のアセスメント <ol style="list-style-type: none"> (1)皮膚粘膜障害の原因と程度 (2)免疫機能障害の原因と程度 (3)身体防御機能障害がもたらす生活への影響 2) 症状とその看護 3) 検査を受ける患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1)粘膜・皮膚生検 (2)スキンテスト 4) 治療を受ける患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1)抗HIV療法 (2)減感作療法 (3)免疫抑制ステロイド療法 (4)抗菌薬、抗ウイルス薬 5) 機能障害をもちながら生活する人の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1)ヒト免疫不全ウイルス感染症患者 (2)アレルギー疾患患者 (3)自己免疫疾患患者 				

内 容	<p>3. 感覚機能障害のある患者の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 機能障害のアセスメント <ol style="list-style-type: none"> (1)原因と程度(視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚障害) (2)感覚機能障害がもたらす生活への影響 2) 症状とその看護 <ol style="list-style-type: none"> (1)特殊感覚と体性感覚 3) 検査を受ける患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1)眼底検査 (2)聴力検査 (3)鼻腔内視鏡検査 (4)味覚検査 4) 治療を受ける患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1)光凝固療法 (2)網膜はく離術 (3)白内障手術 (4)鼓室形成術 5) 機能障害をもちながら生活する人の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1)中途視覚障害者 (2)突発性難聴患者 (3)メニエール氏病患者 (4)副鼻腔炎患者 (5)喉頭癌患者 <p>4. 演習項目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 経皮・外用薬の投与(点眼法・塗布法)
設 定 理 由	既に学んだ基礎的知識を統合し、成人期に起こる血液・造血機能、生体防御機構・内部環境調節、感覚器に健康障害の特徴を学び、対象に応じた看護援助を理解するために設定した。
テ キ ス ト	成人看護学4血液・11アレルギー・13眼・14耳鼻咽喉・12皮膚(医学書院), 臨床放射線医学(医学書院)
参 考 図 書	
評 価	筆記試験 100点
主な関連科目	形態機能疾病論Ⅱ・Ⅳ、成人看護学概論

授 業 科 目	成人看護学援助論Ⅳ	講師名	加藤 貴子(病院で看護師として実務経験有) 有馬 春美(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	2年次 前期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義13回 演習2回 評価1回
目 標	1. 消化吸収機能、栄養代謝機能に障害を持つ成人及び家族への看護援助の方法を理解する。				
内 容	<p>1. 歯・口腔の機能障害のある患者の看護</p> <p>1) 咀嚼・嚥下障害の観察とアセスメント</p> <p>(1)咀嚼・嚥下障害の検査と観察</p> <p>(2)咀嚼・嚥下障害の程度と原因</p> <p>(3)心身・日常生活への影響</p> <p>2) 咀嚼・嚥下障害のある患者の看護</p> <p>(1)経管・経腸栄養法の管理と指導</p> <p>(2)咀嚼・嚥下訓練</p> <p>(3)嚥下障害部位に応じた食事摂取の援助</p> <p>(4)喉頭・咽頭切除術の看護</p> <p>(5)食道再建術の看護</p> <p>2. 消化機能障害のある患者の看護</p> <p>(嘔気、嘔吐、下痢、黄疸、吐血、腹痛、腹部膨満、便秘、経静脈栄養法、ストーマ造設患者のケア、ドレーンの管理、腸管出血性大腸菌感染症、ウイルス性肝炎を含む)</p> <p>1) 消化・吸収障害の観察とアセスメント</p> <p>(1)消化・吸収機能の検査と観察</p> <p>(2)消化・吸収機能障害に伴う症状の観察</p> <p>(3)栄養状態の把握</p> <p>(4)消化・吸収障害の程度と原因</p> <p>(5)心身・日常生活への影響</p> <p>2) 消化・吸収障害のある患者の看護</p> <p>(1)中心静脈栄養の適用と管理</p> <p>(2)消化管内視鏡・造影検査時の援助</p> <p>(3)胆汁瘻の管理と指導</p> <p>(4)腹痛・嘔吐・吐血・下血・下痢の看護</p> <p>(5)胃・十二指腸潰瘍の生活指導</p> <p>(6)膵炎の生活指導</p> <p>(7)腹腔鏡下手術の看護</p> <p>(8)胆嚢摘出術の看護</p> <p>(9)胃切除術の看護</p> <p>(10)膵臓切除術の看護</p> <p>(11)腸切除術の看護</p> <p>3) 肝機能障害の観察とアセスメント</p> <p>(1)肝機能の検査と観察</p> <p>(2)肝機能低下・肝不全に伴う症状の観察</p> <p>(3)肝機能障害の程度と原因</p> <p>(4)心身・日常生活への影響</p> <p>4) 肝機能障害のある患者の看護</p> <p>(1)肝生検時の援助</p> <p>(2)インターフェロン療法時の援助</p> <p>(3)食道静脈硬化療法の合併症予防</p> <p>(4)食道静脈瘤の破裂予防と破裂時の対応</p>				

内 容	<ul style="list-style-type: none"> (5)肝庇護の生活指導 (6)肝性脳症の予防と生活指導 (7)胆管ドレナージの管理と援助 (8)肝動脈塞栓術の看護 (9)肝切除術の看護 5) 排便機能障害の観察とアセスメント <ul style="list-style-type: none"> (1)排便機能の検査と観察 (2)排便機能障害の程度と原因 (3)心身・日常生活への影響 6) 排便機能障害のある患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> (1)大腸内視鏡検査、直腸診時の援助 (2)イレウスの予防と生活指導 (3)直腸切除術・人工肛門造設術の看護 7) 演習項目 <ul style="list-style-type: none"> (1)ストーマの管理 <p>3. 栄養代謝機能障害のある患者の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 糖代謝障害の観察とアセスメント <ul style="list-style-type: none"> (1)糖代謝の検査 (2)肥満度、摂取・消費エネルギーの算出 (3)高血糖症状、低血糖症状の観察 (4)糖代謝障害の程度と原因 (5)心身・日常生活への影響 2) 糖代謝障害のある患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> (1)インスリン療法、経口糖尿病薬の服薬指導 (2)血糖自己測定の指導 (3)インスリン自己注射の指導 (4)糖尿病の食事・運動療法の指導 (5)糖尿病の合併症予防と生活指導 3) 内分泌機能の観察とアセスメント <ul style="list-style-type: none"> (1)甲状腺機能の検査と観察 (2)甲状腺機能障害に伴う症状の観察 (3)甲状腺機能障害の程度と原因 (4)心身・日常生活への影響 4) 内分泌機能障害のある患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> (1)甲状腺切除術の看護 (2)ホルモン補充療法・抗ホルモン療法の生活指導 5) 脂質・尿酸代謝障害の観察とアセスメント <ul style="list-style-type: none"> (1)脂質・尿酸代謝の検査 (2)脂質・尿酸代謝機能障害に伴う症状の観察 (3)脂質・尿酸代謝障害の程度と原因 (4)心身・日常生活への影響 6) 脂質・尿酸代謝障害のある患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> (1)高脂血症の生活指導 (2)高尿酸血症の生活指導 7) 演習項目 <ul style="list-style-type: none"> (1)簡易血糖検査
設定理由	既に学んだ基礎的知識を統合し、成人期に起こる消化吸収機能、栄養代謝機能に障害障害の特徴を学び、対象に応じた看護援助を理解するために設定した。
テキスト	成人看護学5消化器・6内分泌(医学書院)
参考図書	成人看護学14耳鼻咽喉・15歯・口腔
評価	筆記試験 100点
主な関連科目	形態機能疾病論Ⅲ、成人看護学概論

授 業 科 目	成人看護学援助論Ⅴ	講師名	児玉 幸(病院で助産師として実務経験有) 畠山 清明(病院で看護師として実務経験有) 菅野 あゆみ(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	2年次 前期	単 位・時 間	1単位 30時間	回 数	講義15回 評価1回
目 標	1. 性・生殖機能障害と内部環境調節・排尿機能障害を持つ成人及び家族への看護の方法を理解する。				
内 容	<p>1. 性・生殖機能障害のある患者の看護(癌性疼痛を含む)</p> <p>1) 観察とアセスメント</p> <p>(1)生殖・性機能の検査</p> <p>(2)生殖器・性機能障害に伴う症状の観察</p> <p>(3)性行動・性生活の把握</p> <p>(4)生殖・性機能障害の程度と原因</p> <p>(5)心身・性生活・日常生活への影響</p> <p>2) 性・生殖機能障害のある患者の看護</p> <p>(1)内診、性機能検査時の援助</p> <p>(2)勃起障害に対する薬物療法時の援助</p> <p>(3)子宮・卵巣摘出術の看護</p> <p>(4)乳腺の疾患と看護</p> <p>(5)ホルモン療法の看護</p> <p>2. 内部環境調節障害・排尿機能障害のある患者の看護(乏尿、無尿、頻尿、浮腫、利尿薬、脱水を含む)</p> <p>1) 体液調節機能の観察とアセスメント</p> <p>(1)腎機能の検査と観察</p> <p>(2)腎機能低下に伴う症状の観察</p> <p>(3)体液不均衡の程度と原因</p> <p>(4)心身・日常生活への影響</p> <p>2) 体液不均衡のある患者の看護</p> <p>(1)腎生検時の援助</p> <p>(2)急性腎不全の病期に応じた生活指導</p> <p>(3)慢性腎不全の病期に応じた生活指導</p> <p>(4)透析療法の適用基準と選択</p> <p>(5)血液透析・腹膜透析の管理(透析室の説明を含む)</p> <p>(6)維持透析の生活指導</p> <p>(7)腎移植術の看護</p> <p>3) 排尿機能障害の観察とアセスメント</p> <p>(1)排尿機能の検査と観察</p> <p>(2)尿排泄障害の程度と原因</p> <p>(3)心身・日常生活への影響</p> <p>4) 排尿機能障害のある患者の看護</p> <p>(1)尿流動検査、膀胱鏡検査時の援助</p> <p>(2)膀胱留置カテーテルの管理</p> <p>(3)間欠的自己導尿法の指導</p> <p>(4)腹圧性尿失禁の運動訓練と生活指導</p> <p>(5)尿路変更術後の看護</p> <p>(6)前立腺摘出術の看護</p>				
設 定 理 由	既に学んだ基礎的知識を統合し、成人期に起る性・生殖機能障害と排尿機能障害の特徴を学び、対象に応じた看護援助を理解するために設定した。				
テ キ ス ト	成人看護学9女性生殖器・8腎泌尿器(医学書院)				
参 考 図 書					
評 価	筆記試験 100点				
主 な 関 連 科 目	形態機能疾病論Ⅲ・Ⅴ、成人看護学概論				

授 業 科 目	成人看護学援助論VI	講師名	上遠野 純子(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	2年次 後期	単位・時間	1単位 15時間	回数	講義1回 演習7回 評価1回
目 標	1. 事例から看護過程を展開し、対象に必要な看護援助を理解する。				
内 容	1. 事例をもとに看護過程の展開 1) アセスメント 2) 問題の明確化 3) 計画				
設 定 理 由	多様な社会的役割を担う成人期にある対象の生活を総合的に踏まえて、対象の健康問題をアセスメントし看護活動を理解するために設定した。				
テ キ ス ト					
参 考 図 書	成人看護学(医学書院)テキストすべて 患者さんの情報収集ガイドブック(メヂカルフレンド社)				
評 価	筆記試験 100点				
主 関 連 科 目	基礎看護学援助論IV、成人看護学概論 I・II、成人看護学援助論 I～V				

授 業 科 目	老年看護学概論	講師名	鈴木 典子(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	1年次 後期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義11回 演習4回 評価1回
目 標	1. 老年期にある人の特徴とその生活について学び、老年看護の役割を理解する。				
内 容	1. 高齢者の理解 <ul style="list-style-type: none"> 1) 高齢者とは 2) 高齢者の特徴と理解 3) 高齢者にとっての健康 4) 高齢者とQOL 5) 加齢に伴う変化 6) 高齢者の理解とコミュニケーション 2. 高齢者をとりまく社会 <ul style="list-style-type: none"> 1) 高齢者の生活と家族 2) 高齢者が生活する場 3) 高齢者を支える制度 4) 高齢者を支える社会資源 3. 高齢者看護の基本 <ul style="list-style-type: none"> 1) 高齢者看護の特性 2) 高齢者看護にかかわる諸理論 3) 高齢者看護における倫理 4) 高齢者によくみられる疾患 5) 高齢者のリスクマネジメント 4. 高齢者の生活理解 <ul style="list-style-type: none"> 1) 高齢者疑似体験 				
設 定 理 由	高齢者の特徴とその生活を踏まえた対応と、家族を含めた看護を理解するために設定した。				
テ キ ス ト	高齢者の健康と障害(メディカ出版), 老年看護の実践(メディカ出版)				
参 考 図 書					
評 価	筆記試験 100点				
主 な 関 連 科 目	形態機能総論、公衆衛生Ⅱ、社会福祉Ⅰ、看護と法律、基礎看護学概論				

授 業 科 目	老年看護学援助論 I	講師名	石名坂 豊子(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	2年次 前期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義13回 演習2回 評価1回
目 標	1. 老年期にある人の健康生活のための看護実践を理解する。				
内 容	1. 健康の維持と介護予防 <ul style="list-style-type: none"> 1) 高齢者の健康づくり 2) 生活習慣病予防 3) 転倒予防 4) 認知症予防 2. 高齢者を支える看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 高齢者のバイタルサインの特性 2) 高齢者の生活機能と包括的アセスメント 3) コミュニケーション 4) 歩行・移動 5) 食生活 6) 排泄 7) 清潔・衣生活 8) 活動と休息 9) 性 10) 社会参加 11) 高齢者に特徴的な災害時の看護 3. 長期療養施設・在宅の看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 地域包括ケア 2) 在宅 3) 介護保険施設 4) 地域密着型サービス 5) デイサービス・デイケア 4. 演習項目 <ul style="list-style-type: none"> 1) 排泄援助(オムツ交換など) 2) 陰部の保清 				
設 定 理 由	高齢者の健康は、加齢による変化や生活環境による影響を受けやすいので、老年期の特徴を踏まえて健康増進への援助を理解するために設定した。				
テ キ ス ト	高齢者の健康と障害(メディカ出版), 老年看護の実践(メディカ出版)				
参 考 図 書					
評 価	筆記試験 100点				
主 な 関 連 科 目	老年看護学概論、基礎看護学援助論Ⅱ～Ⅷ				

授 業 科 目	老年看護学援助論Ⅱ	講師名	丸山 陽子(病院で看護師として実務経験有) 大槻 純子(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	2年次 前期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義15回 評価1回
目 標	1. 老年期にある人の障害時の問題について学び、障害をもつ高齢者とその家族に対する看護を理解する。				
内 容	1. 高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護 1) 脱水症 (1)高齢者の脱水症の病態と要因 (2)脱水症のアセスメント (3)脱水症の予防と援助 2) 摂食・嚥下障害 (1)高齢者の摂食・嚥下障害の病態と要因 (2)摂食・嚥下障害のアセスメント (3)摂食・嚥下障害を有する高齢者の看護 (4)誤嚥性肺炎の予防と援助 3) 低栄養状態 (1)高齢者の低栄養状態の病態と要因 (2)低栄養状態のアセスメント (3)他職種との協働による栄養管理 4) 痒痒症 (1)高齢者の痒痒症の病態と要因 (2)痒痒症の症状と生活への影響のアセスメント (3)痒痒症の予防と援助 5) 尿失禁 (1)高齢者の尿失禁と病態と要因 (2)尿失禁のアセスメント (3)尿失禁を有する高齢者への援助 6) 便秘・下痢 (1)高齢者の便秘・下痢の病態と要因 (2)便秘・下痢のアセスメント (3)便秘・下痢の予防と援助 7) 睡眠障害 (1)高齢者の睡眠の特徴と睡眠障害の病態と要因 (2)睡眠障害のアセスメント (3)睡眠障害を有する高齢者への援助 8) 視覚障害 (1)高齢者の視覚障害の病態と要因 (2)視覚障害の程度と生活への影響のアセスメント (3)白内障治療時の援助 9) 聴覚障害 (1)高齢者の聴覚障害の病態と要因 (2)聴覚障害の程度と生活への影響のアセスメント (3)補聴器を使用する高齢者とその家族への援助 10) 廃用症候群 (1)高齢者の廃用症候群の病態と要因 (2)廃用症候群のためのアセスメント (3)廃用症候群予防のための援助 11) 骨粗鬆症 (1)高齢者の骨粗鬆症の病態と要因 (2)骨粗鬆症の症状と生活への影響のアセスメント (3)骨粗鬆症予防のための援助 (4)骨粗鬆症の治療と援助				

内 容	<ul style="list-style-type: none"> 12) うつ病 <ul style="list-style-type: none"> (1)高齢者のうつ病の特徴と要因 (2)うつ病の症状と生活への影響のアセスメント (3)うつ病の治療と援助 13) せん妄 <ul style="list-style-type: none"> (1)高齢者のせん妄の病態と要因 (2)せん妄のアセスメント (3)せん妄予防のための援助 (4)せん妄発生時の治療と援助 14) 認知症 <ul style="list-style-type: none"> (1)高齢者の認知症の病態と要因 (2)認知機能の評価方法 (3)認知症高齢者に対する基本的姿勢とコミュニケーション方法 (4)周辺症状と生活への影響のアセスメント (5)認知症の治療と援助 (6)認知症の療法的アプローチ (7)認知症高齢者の家族への支援とサポートシステム (8)認知症高齢者の権利擁護のための社会的支援・制度 15) パーキンソン症候群 <ul style="list-style-type: none"> (1)高齢者のパーキンソン症候群の病態と要因 (2)パーキンソン症候群の症状と生活への影響のアセスメント (3)パーキンソン症候群の治療と援助 16) 感染症 <ul style="list-style-type: none"> (1)高齢者の感染症の病態と要因 (2)感染症の罹患予防と感染拡大の防止策 17) 痛み・しびれ <ul style="list-style-type: none"> (1)高齢者の痛み・しびれの特徴と要因 (2)痛み・しびれのアセスメント (3)痛み・しびれの治療と援助 <p>2. 治療を受ける高齢者への看護</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 薬物療法 <ul style="list-style-type: none"> (1)加齢に伴う薬物動態の変化 (2)服薬管理とリスクマネジメント (3)薬物療法を受ける高齢者への援助 2) 手術療法 <ul style="list-style-type: none"> (1)麻酔・手術侵襲が高齢者に与える影響 (2)高齢者の手術療法におけるインフォームドコンセントと看護の役割 (3)術前準備における高齢者への援助 (4)術中における高齢者への援助 (5)高齢者に起こりやすい術後合併症の予防と援助 3) リハビリテーション <ul style="list-style-type: none"> (1)高齢者に対するリハビリテーションの意義と特徴 (2)リハビリテーションを受ける高齢者の看護 4) 受療形態に応じた高齢者への看護 <ul style="list-style-type: none"> (1)入院時の看護 (2)外来診療時の看護 (3)検査時の看護 (4)退院計画と退院時の看護 <p>3. 高齢者の終末期の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 高齢者の死にかかわる権利と医療・ケア提供者の責務・役割 <ul style="list-style-type: none"> (1)高齢者の死亡の動向 (2)終末期の概念と高齢者の晩年期の特徴 (3)終末期における生き方や死の迎え方の意向 (4)家族の参加と家族への支援 (5)多専門職種からなる医療・ケアチームによる終末期支援の意義と役割
-----	---

内 容	<ul style="list-style-type: none"> 2) 終末期看護の実践 <ul style="list-style-type: none"> (1)身体兆候のアセスメントと看護 (2)苦痛の緩和と安楽への看護 (3)精神的苦痛や混乱に対する看護 (4)臨死期の評価と看護 3) 看取りを終えた家族への看護 <ul style="list-style-type: none"> (1)家族の心理の理解と看護 (2)家族へのグリーフケア (3)家族の生活の再構築への看護
設 定 理 由	高齢者に特徴的な疾患や障害について学び、健康障害をもつ高齢者とその家族に対する看護を理解するために設定した。
テ キ ス ト 参 考 図 書	老年看護の実践(メディカ出版)
評 価	筆記試験 100点
主な関連科目	老年看護学概論、形態機能疾病論VI、成人看護学援助論 I～VI

授 業 科 目	老年看護学援助論Ⅲ	講師名	鈴木 典子(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	2年次 後期	単位・時間	1単位 15時間	回数	講義3回 演習5回
目 標	1. 事例から看護過程を展開し対象に必要な看護援助を理解する。				
内 容	1. 事例をもとに看護過程の展開 1) アセスメント 2) 問題の明確化 3) 計画				
設 定 理 由	障害をもった高齢者とその家族の健康問題を看護過程の展開により理解するために設定した。				
テ キ ス ト	高齢者の健康と障害(メディカ出版), 老年看護の実践(メディカ出版)				
参 考 図 書					
評 価	課題試験 100点				
主 な 関 連 科 目	基礎看護学援助論Ⅳ、老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ・Ⅱ				

授 業 科 目	小児看護学概論	講師名	石名坂 豊子(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	2年次 前期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義12回 演習3回 評価1回
目 標	1. 小児看護の対象、目的、および小児看護の役割を学ぶ。 2. 子どもの成長・発達の特徴を理解し、健やかに成長するための養育と看護について学び、健康の維持増進の方法を理解する。				
内 容	1. 子どもと家族を取り巻く環境 1) 小児医療、小児看護の変遷と課題 2) 子どもの権利 3) 子どもと家族を取り巻く社会資源の活用 2. 子どもの成長と発達 1) 子どもの成長・発達の原則と影響因子 2) 子どもの成長・発達のアセスメント 3) 乳児期の子どもの成長・発達と看護 4) 幼児期の子どもの成長・発達と看護 5) 学童期の子どもの成長・発達と看護 6) 思春期の人々の成長・発達と看護				
設 定 理 由	小児看護の対象である子どもの成長・発達と小児看護の役割を学び、健やかに成長するための養育と看護について学ぶために設定した。				
テ キ ス ト	小児の発達と看護(メディカ出版), 小児看護技術(メディカ出版)				
参 考 図 書	小児看護学概論(医学書院), 小児臨床看護各論(医学書院)				
評 価	筆記試験 75点・課題試験 25点				
主 な 関 連 科 目	公衆衛生Ⅱ、形態機能総論、形態機能疾病論Ⅴ、社会福祉Ⅰ、基礎看護学概論、小児看護学概論				

授 業 科 目	小児看護学援助論 I	講師名	鈴木 春香(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	2年次 前期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義15回 評価1回
目 標	1. 健康障害が小児と家族に及ぼす影響を理解する。 2. 小児看護に必要な基礎的知識と援助技術を理解する。				
内 容	1. 病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響と看護 1) 病気に対する子どもの理解と説明 2) プレパレーション 3) 病気や診療・入院が子どもに与える影響と看護 4) 子どもの病気や診療・入院がきょうだい・家族に及ぼす影響と看護 5) 痛みを表現している子どもと家族への看護 6) 活動制限が必要な子どもと家族への看護 7) 感染対策上隔離が必要な子どもと家族への看護 8) 外来における子どもと家族への看護 2. 検査や処置を受ける子どもと家族への看護 1) 診療(検査、処置)に伴う技術と看護 (1)バイタルサインの測定 (2)身体計測 (3)採血 (4)採尿 (5)骨髄穿刺 (6)腰椎穿刺 (7)与薬 (8)注射 (9)輸液療法 (10)吸引 (11)酸素療法 (12)経管栄養 3. 特別な状況にある子どもと家族への看護 1) 虐待を受けている子どもと家族への看護 2) 災害を受けた子どもと家族への看護				
設 定 理 由	健康障害や症状が小児や家族に及ぼす影響を理解し、小児看護に必要なアセスメント技術や援助技術を学ぶために設定した。				
テ キ ス ト	小児の発達と看護(メディカ出版), 小児看護技術(メディカ出版)				
参 考 図 書	小児看護学概論(医学書院), 小児臨床看護各論(医学書院)				
評 価	筆記試験 100点				
主 な 関 連 科 目	形態機能疾病論Ⅴ、基礎看護学援助論Ⅱ～基礎看護学援助論Ⅷ、小児看護学概論				

授 業 科 目	小児看護学援助論Ⅱ	講師名	鈴木 春香(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	2年次 後期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義12回 演習3回 評価1回
目 標	1. 小児に出現しやすい健康障害を理解し、健康障害の特性と病態各期に応じた看護の方法を理解する。				
内 容	1. 急性期にある子どもと家族への看護 1) 急性症状のある子どもと家族への看護 (1)発熱 (2)脱水 (3)下痢・嘔吐 (4)呼吸困難 (5)けいれん 2) 救急救命処置が必要な子どもと家族への看護 3) 周手術期における子どもと家族への看護 4) 出生直後から集中治療が必要な子どもと家族への看護 2. 慢性的な疾患・障害がある子どもと家族への看護 1) 慢性疾患をもつ子どもと家族への看護 2) 先天性疾患のある子どもと家族への看護 3) 心身障害のある子どもと家族への看護 4) 医療的ケアを必要として退院する子どもと家族への看護 3. 終末期にある子どもと家族への看護 1) 子どもの死の理解と看護 2) 終末期にある子どもと家族への緩和ケア				
設 定 理 由	健康障害を持つ子どもと家族の状況に応じた看護を学ぶために設定した。				
テ キ ス ト	小児の発達と看護(メディカ出版), 小児看護技術(メディカ出版)				
参 考 図 書	小児看護学概論(医学書院), 小児臨床看護各論(医学書院)				
評 価	筆記試験 100点				
主 な 関 連 科 目	形態機能疾病論Ⅴ、診断治療論Ⅱ、小児看護学概論				

授 業 科 目	小児看護学援助論Ⅲ	講師名	佐藤 奈央(病院で保健師として実務経験有)		
開 講 時 期	2年次 後期	単位・時間	1単位 15時間	回数	演習7回 評価1回
目 標	1. 事例から看護過程を展開し、小児と家族に必要な看護援助を理解する。				
内 容	1. 事例をもとに看護過程の展開 1) アセスメント 2) 問題の明確化 3) 計画				
設 定 理 由	子どもの成長・発達を理解し、健康障害を持った小児と家族への看護援助方法を理解するために設定した。				
テ キ ス ト	小児臨床看護各論(医学書院)、小児の発達と看護(メディカ出版)、 小児看護技術(メディカ出版)				
参 考 図 書					
評 価	筆記試験 100点				
主な関連科目	基礎看護学援助論Ⅳ、小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ・Ⅱ				

授 業 科 目	母性看護学概論	講師名	児玉 幸(病院で助産師として実務経験有)		
開 講 時 期	2年次 前期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義15回 評価1回
目 標	1. リプロダクティブ・ヘルスの基礎について学び、女性のライフサイクルにおける看護について理解する。				
内 容	1. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 <ol style="list-style-type: none"> 1) 母性看護の変遷 <ol style="list-style-type: none"> (1)母性看護にかかわる指標 (2)母性看護の提供システム (3)国際社会と看護 2) 妊産婦への支援に関する法や施策 <ol style="list-style-type: none"> (1)母子保健にかかわる法律と施策 2. 母性看護の基盤となる概念 <ol style="list-style-type: none"> 1) リプロダクティブ・ヘルスに関する概念 <ol style="list-style-type: none"> (1)リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (2)セックス、ジェンダー、セクシュアリティ (3)性の多様性 2) 母性・父性・家族に関する概念 <ol style="list-style-type: none"> (1)母性とは (2)母子関係と家族発達 3) ヘルスプロモーション <ol style="list-style-type: none"> (1)女性の生涯にわたる健康教育 3. 女性のライフサイクル各期における看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 思春期-成熟期女性の健康課題 <ol style="list-style-type: none"> (1)第二性徴 (2)性意識・性行動の発達 (3)月経異常 (4)家族計画 (5)性感染症 (6)不妊症 (7)性暴力被害 (8)人工妊娠中絶 2) 更年期-老年期女性の健康課題 <ol style="list-style-type: none"> (1)ホルモンの変化と閉経 (2)更年期症状 				
設 定 理 由	女性に先天的に備わっている形態・機能の特徴、および成長過程で精神的・行動的に獲得する次世代を育てるための特徴を理解するために設定した。				
テ キ ス ト	母性看護学概論(医学書院), 母性看護学各論(医学書院)				
参 考 図 書					
評 価	筆記試験 100点				
主 な 関 連 科 目	形態機能総論、基礎看護学概論、公衆衛生Ⅱ、社会福祉Ⅰ、看護と法律				

授 業 科 目	母性看護学援助論 I	講師名	山部 朋美(病院で助産師として実務経験有)		
開 講 時 期	2年次 前期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義15回 評価1回
目 標	1. 正常な経過にある妊産褥婦と新生児の看護について理解する。				
内 容	1. 子どもを産み育てる事とその看護 1) 母親役割、父親役割 2) 家族の発達・機能 2. 正常な経過にある妊産褥婦と新生児の看護 1) 妊娠期の生理と妊婦の看護 (1)妊娠の経過と胎児の発育 (2)妊婦の心理 (3)妊娠と不快症状 (4)妊婦の日常生活とセルフケア (5)妊婦、胎児の健康と生活のアセスメント (6)親役割の準備 2) 分娩期の生理と産婦の看護 (1)分娩経過と胎児の健康状態 (2)産婦の基本的ニーズと看護 (3)産婦、胎児の健康のアセスメント (4)産婦と家族の心理 3) 産褥期の生理と褥婦の看護 (1)産褥の経過 (2)褥婦の心理 (3)褥婦の健康と生活のアセスメント (4)褥婦と家族への看護 (5)母乳育児への支援 4) 新生児期の生理と看護 (1)新生児の特徴と生理的变化 (2)新生児の健康と発育のアセスメント (3)新生児と家族への看護				
設 定 理 由	子どもを産み育てる人々への看護を理解するために設定した。				
テ キ ス ト	母性看護学概論(医学書院), 母性看護学各論(医学書院)、母性看護技術(メヂカルフレンド社)				
参 考 図 書					
評 価	筆記試験 100点				
主 関 連 科 目	形態機能疾病論Ⅴ、母性看護学概論				

授 業 科 目	母性看護学援助論Ⅱ	講師名	児玉 幸(病院で助産師として実務経験有)		
開 講 時 期	2年次 後期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義11回 演習4回 評価1回
目 標	1. 正常な経過にある妊産褥婦と新生児の看護の実際について理解する。 2. 異常経過にある妊産褥婦と新生児の看護について理解する。				
内 容	1. 妊産褥婦に対する看護技術(演習項目) 1) 検査の介助・胎児心音の聴取 2) レオポルド触診法・安楽の促進と苦痛緩和のためのケア 3) 子宮復古の観察 4) 乳房の観察 2. 新生児に対する看護技術(演習項目) 1) 安全な抱き方・寝かせ方 2) バイタルサインの測定 3) 沐浴と清拭・臍帯の処置 4) 授乳と排気法 3. ハイリスクな状況にある妊産褥婦と新生児の看護 1) 妊娠期の異常と看護 (1)妊娠経過の健康問題に対する看護 (2)出生前診断と看護 2) 分娩期の異常と看護 (1)分娩経過の健康問題に対する看護 (2)胎児機能不全 3) 産褥期の異常と看護 (1)産褥経過の健康問題に対する看護 (2)帝王切開術後の看護 (3)死産、障害をもつ新生児を出産した親の看護 4) 新生児期の異常と看護 (1)新生児の健康問題に対する看護 (2)早産児、低出生体重児の看護 (3)先天異常、障害をもつ新生児の看護				
設 定 理 由	既習内容を活用し、より実践的な看護を理解する。また、異常経過にある子どもを産み育てる人々への看護を理解するために設定した。				
テ キ ス ト	母性看護学概論(医学書院), 母性看護学各論(医学書院), 母性看護技術(メジカルフレンド社)				
参 考 図 書	小児看護学テキスト, 病気がみえる産科(メディカ出版), 母性看護学②(メジカルフレンド社)				
評 価	筆記試験 100点				
主 な 関 連 科 目	形態機能疾病論Ⅴ、母性看護学概論				

授 業 科 目	母性看護学援助論Ⅲ	講師名	児玉 幸(病院で助産師として実務経験有)		
開 講 時 期	2年次 後期	単 位・時 間	1単位 15時間	回 数	演習7回 評価1回
目 標	1. 正常な経過にある妊産褥婦と新生児の看護について、事例を通して理解する。				
内 容	1. 事例をもとに看護過程の展開 1) アセスメント 2) 問題の明確化 3) 計画				
設 定 理 由	既習内容をもとに看護過程を行うことで、正常な経過にある妊産褥婦と新生児への看護の理解を深めるために設定した。				
テ キ ス ト	母性看護学概論(医学書院), 母性看護学各論(医学書院)、母性看護技術(メヂカルフレンド社)				
参 考 図 書	基礎看護技術(メディカ出版), 小児看護学テキスト				
評 価	筆記試験 100点				
主 な 関 連 科 目	基礎看護学援助論Ⅳ、母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ・Ⅱ				

授 業 科 目	精神看護学概論	講師名	松本 奈緒美(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	1年次 後期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義15回 評価1回
目 標	1. ノーマライゼーションの視点で心に障害をもつ人を理解し、精神看護の役割と機能を理解する。				
内 容	1. 精神保健医療福祉の歴史と法制度 1) 精神保健医療福祉の歴史と看護 (1)欧米における精神科医療の歴史 (2)日本における精神科医療の歴史 (3)精神保健医療福祉における看護師の役割 2) 精神保健福祉の法制度 (1)精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の基本的考え方 (2)精神保健及び精神障害者福祉に関する法律による入院の形態 (3)精神保健指定医 (4)保護者 (5)心身喪失者等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察に関する法律の基本的考え方 2. 安全な治療環境の提供と人権擁護 1) 安全管理 (1)病棟環境の整備と行動制限 (2)自殺・自殺企図・自傷行為 (3)攻撃的行動、暴力 (4)災害時地域精神保健医療活動 2) 患者の権利擁護<アドボカシー> (1)当事者の自己決定の尊重 (2)入院患者の基本的な処遇 (3)精神医療審査会 (4)隔離、身体拘束 3. 精神の健康とマネジメント 1) 心身相関と健康 2) 身体疾患をもつ人の精神の健康 3) 精神疾患をもつ人の身体の健康 4) 患者と家族の精神の健康 看護職員の精神の健康 4. 看護理論 1) 対人関係の看護論 2) セルフケア理論				
設 定 理 由	精神看護の対象者を生活者として捉え、精神看護の特徴や看護師の役割を学ぶために設定した。				
テ キ ス ト	精神看護の基礎(医学書院), 精神看護の展開(医学書院)				
参 考 図 書	精神看護学概論・精神保健(メジカルフレンド社) 精神障害をもつ人の看護(メジカルフレンド社)				
評 価	筆記試験 100点				
主 な 関 連 科 目	心理学、人間関係論、形態機能疾病論Ⅵ、公衆衛生Ⅱ、社会福祉Ⅰ、看護と法律				

授 業 科 目	精神看護学援助論 I	講師名	松本 奈緒美(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	2年次 前期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義14回 演習1回 評価1回
目 標	1. 生活の場における心の健康の保持増進の基礎的方法と看護、メンタルヘルスの重要性を理解する。 2. 治療的な対人関係の重要性を理解する。				
内 容	1. 援助関係の構築 2. コンサルテーションとの連携 3. セルフケアと援助 1) 空気・水・食物の十分な摂取 2) 排泄物と排泄のプロセスに関するケア 3) 体温と個人衛生の維持 4) 活動と休息のバランスの維持 5) 一人であることと社会的相互作用のバランスの維持 6) 安全を保つ能力 4. 生きる力と強さに着目した援助 1) ストレングス<強み・力> 2) リカバリ<回復> 3) エンパワメント 4) レジリエンス 5. 演習項目 1) 精神的安寧を保つためのケア				
設 定 理 由	人は安心と自尊感情が心の成長につながる。そして、心の保持増進のために、メンタルヘルスの重要性を理解するために設定した。				
テ キ ス ト	精神看護の基礎(医学書院), 精神看護の展開(医学書院)				
参 考 図 書	精神看護学概論・精神保健(メジカルフレンド社) 精神障害をもつ人の看護(メジカルフレンド社)				
評 価	筆記試験 100点				
主 な 関 連 科 目	人間関係論、精神看護学概論				

授 業 科 目	精神看護学援助論Ⅱ	講師名	鈴木 輝子(病院で看護師として実務経験有) 箱崎 恵利奈(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	2年次 前期	単 位・時 間	1単位 30時間	回 数	講義10回 演習5回 評価1回
目 標	1. 心の健康に障害をもつ人の看護について理解する。				
内 容	1. 精神症状のアセスメントと援助 (統合失調症・神経症障害・依存症、心的外傷後ストレス障害を含む) 1) 不安状態 2) 抑うつ状態 3) 躁状態 4) 幻覚 5) 思考内容と思路の障害 6) 強迫思考・強迫行為 7) 意識の変容 8) 記憶障害 9) 離脱症状 10) 知的機能の障害 2. 精神科治療と看護 1) 臨床検査 (1)脳波検査・脳の画像検査 (2)心理検査 (3)脳脊髄液検査 2) 薬物療法 (1)抗精神病薬 (2)抗うつ薬 (3)気分安定薬 (4)抗不安薬 (5)睡眠薬 (6)抗てんかん薬 3) 症状マネジメント (1)服薬自己管理 (2)心理教育 4) 精神療法 (1)個人精神療法 (2)集団精神療法 (3)認知行動療法 5) リハビリテーション療法 (1)作業療法 (2)芸術療法 (3)生活技能訓練				

<p style="text-align: center;">内 容</p>	<p>3. 精神障害者のリハビリテーション</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会復帰・社会参加の基本 <ol style="list-style-type: none"> (1)リハビリテーションの概念 (2)国際生活機能分類 (3)精神障害者ケアマネジメントの基本的な考え方 (4)長期入院患者の退院支援 2) 保健医療に関する資源の活用と調整 <ol style="list-style-type: none"> (1)保健所、市町村、精神保健福祉センター (2)精神科デイケア、精神科ナイトケア (3)訪問看護、精神科訪問看護 3) 福祉に関する資源の活用と調整 <ol style="list-style-type: none"> (1)自立支援医療 (2)居宅介護 (3)行動擁護 (4)生活介護 (5)短期入所 (6)共同生活介護 (7)施設入所支援 (8)自立訓練 (9)就労移行支援 (10)就労継続支援 (11)共同生活援助 (12)地域生活支援事業 (13)精神障害者保健福祉手帳 4) 人的資源の活用と調整 <ol style="list-style-type: none"> (1)保健師 (2)精神保健福祉士 (3)作業療法士 (4)精神保健福祉相談員 (5)セルフヘルプグループ (6)チーム医療 <p>4. 演習項目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 経口薬(バツカル錠、内服薬、舌下錠)の投与
<p>設 定 理 由</p>	<p>心の健康に障害をもつ人の人権を守り、生活を支えるために必要な看護を学ぶために設定した。</p>
<p>テ キ ス ト</p>	<p>精神看護の基礎(医学書院), 精神看護の展開(医学書院)</p>
<p>参 考 図 書</p>	<p>精神看護学概論・精神保健(メジカルフレンド社) 精神障害をもつ人の看護(メジカルフレンド社)</p>
<p>評 価</p>	<p>筆記試験 100点</p>
<p>主な関連科目</p>	<p>形態機能疾病論Ⅵ、公衆衛生Ⅱ、社会福祉Ⅰ、精神看護学概論</p>

授 業 科 目	精神看護学援助論Ⅲ	講師名	松本 奈緒美(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	2年次 後期	単位・時間	1単位 15時間	回数	講義1回 演習6回 評価1回
目 標	1. 事例から看護過程を展開し、対象に必要な看護援助を理解する。				
内 容	1. 事例をもとに看護過程の展開 1) アセスメント 2) 問題の明確化 3) 計画				
設 定 理 由	心の健康に障害をもつ人の心の行動を総合的に理解し、知識を深め、問題解決能力を身につけるため設定した。				
テ キ ス ト	精神看護の基礎(医学書院), 精神看護の展開(医学書院)				
参 考 図 書	精神看護学概論・精神保健(メジカルフレンド社) 精神障害をもつ人の看護(メジカルフレンド社)				
評 価	筆記試験 100点				
主 な 関 連 科 目	基礎看護学援助論Ⅳ、精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱ				

授 業 科 目	看護総合 I	講師名	遠藤 利美(病院で看護師として実務経験有) 松村 耕平		
開 講 時 期	3年次 前期	単位・時間	1単位 15時間	回数	講義7回 評価1回
目 標	1. 看護マネジメントできる基礎的能力を理解する。 2. チーム医療及び多職種と協働の中で看護師としての役割を理解する。				
内 容	1. 看護とマネジメント 2. 看護ケアのマネジメント 3. 看護職のキャリアマネジメント 4. 看護サービスのマネジメント 5. 看護を取り巻く諸制度 6. マネジメントに必要な知識と技術 7. 国際化と看護				
設 定 理 由	医療・医療保険の仕組みを理解し、医療チームの一員として、看護サービスが実践・遂行できる能力を身につけると共に、看護師としての魅力や喜びを感じることができることを目的として設定した。また、国際社会においては、諸外国との協力・協働を考える機会とすることを目的として設定した。				
テ キ ス ト	看護管理(医学書院)・看護学概論(医学書院)				
参 考 図 書					
評 価	筆記試験 100点				
主 な 関 連 科 目	基礎看護学概論				

授 業 科 目	看護総合Ⅱ	講師名	渡邊 菜摘(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	2年次 前期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義14回 演習1回 評価1回
目 標	1. 医療安全の概念、医療事故と法律、医療事故防止の必要性について理解する。 2. 臨床で起こった事故事例を基に看護医療事故防止についての知識と姿勢を養う。				
内 容	1. 医療安全を学ぶことのたいせつさ 2. 専門職と法的責任 3. 医療事故と看護業務 4. 看護事故の構造と事故防止の考え方 5. 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因 1) タイムプレッシャー 2) エラーに関する行動特性 6. 医療安全とコミュニケーション 1) 情報伝達の共有・管理 7. 組織的な安全管理体制への取り組みとわが国の医療安全対策の展望 1) リスクマネジメント・セーフティマネジメント 2) インシデントレポート 3) 基礎的な医療関連感染対策 8. 事例検討 9. 演習項目 1) 針刺し事故防止・事故後の対応 2) インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告 3) 人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施 4) 放射線被ばくの防止策の実施				
設 定 理 由	医療職を選ぶことの責任の重さと安全を学ぶことの意義を理解し、医療安全予防対策に取り組む姿勢をもつことができる。また、看護技術を学ぶ中では、間違いや事故がどのような要因で起きているのかを探求し、医療事故防止につなげることができることを目的に設定した。				
テ キ ス ト	医療安全 (医学書院)				
参 考 図 書	医療安全ワークブック (医学書院)				
評 価	筆記試験 100点				
主 な 関 連 科 目	看護と法律、看護総合Ⅰ				

授 業 科 目	看護総合Ⅲ	講師名	瀬谷 律子(病院で看護師として実務経験有) 大平 瑞希(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	3年次 前期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義11回 演習4回 評価1回
目 標	1. 様々な状況の中で実践活動できる知識を理解する。				
内 容	1. 災害時の保健医療とは 2. 災害保健医療の理解 3. 超急性期・急性期の災害保健医療と看護実践 4. 亜急性期の災害保健医療と看護実践 5. 慢性期の災害保健医療と看護実践 6. 静穏期の災害保健医療と看護実践 7. 要配慮者への看護 8. 災害時のメンタルヘルス 9. 災害に関連した特殊な医療・看護実践 10. 災害時特有の疾病				
設 定 理 由	医療活動の場は拡大し、災害時など資材・人材が平常時と異なる環境の中で看護をすることが求められている。そして、生命や健康生活への被害を最小限にするための看護の役割を学び、患者の生命を守るための看護を提供する方法を理解する必要があることから設定した。				
テ キ ス ト	災害看護学(メヂカルフレンド社)				
参 考 図 書	災害看護学習テキスト概論編・実践編(日本看護協会), 災害看護(メディカ出版)				
評 価	筆記試験 100点				

授 業 科 目	看護総合Ⅳ	講師名	草野 亘(病院で看護師として実務経験有) 渡部 恵(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	2年次 後期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義13回 演習2回 評価1回
目 標	1. 安全に対する知識・態度を養う。 2. 安全で確かな技術が提供できる判断力・応用力を養う。				
内 容	1. 知らねばならない”危険”の知識 2. 看護業務に必要な計算ドリル 3. 診療の補助の事故防止 4. 療養上の世話の事故防止 5. 演習項目 1) 薬剤(毒薬、劇薬、麻薬、抗がん剤)の管理 2) 輸血の管理 3) 患者の誤認防止策の実施				
設 定 理 由	医療事故シミュレーションを通して医療現場に即した医療安全能力を身につけることができるよう設定した。				
テ キ ス ト	医療安全(医学書院)				
参 考 図 書	医療安全ワークブック(医学書院)				
評 価	筆記試験 100点				
主 関 連 科 目	看護総合Ⅰ・Ⅱ				

授 業 科 目	看護総合V	講師名	上遠野 純子(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	3年次 前期	単位・時間	1単位 30時間	回数	講義4回 演習10回 評価1回
目 標	1. さまざまな場面や状況の中で対応できる知識・技術・態度を養う。 2. 看護の知識と技術を統合し多重課題を解決できる実践能力を養う。				
内 容	1. 模擬複数患者の管理体験 2. 複数症状へのアプローチ 3. 急変時の看護				
設 定 理 由	さまざまな場面や状況の中で対応できるコミュニケーション能力と適切な対応ができる技術と態度を身につけることができる。また、複数の患者を受け持ち問題解決できる能力と優先順位を考え実践できる能力を身につけることができるよう設定した。				
テ キ ス ト					
参 考 図 書	看護管理(医学書院) 医療安全(医学書院) 看護過程に沿った対症看護(学研)				
評 価	筆記試験 100点				
主 な 関 連 科 目	看護総合 I・II・IV				

授 業 科 目	看護総合VI	講師名	鈴木 典子(病院で看護師として実務経験有)		
開 講 時 期	3年次 後期	単 位・時 間	1単位 30時間	回 数	講義8回 演習6回 評価2回
目 標	1. チームにおける看護師の役割を理解し、多職種との連携・協働の実際を学ぶ。				
内 容	1. チーム医療における多職種との連携・協働の実際 1) 事例検討				
設 定 理 由	チーム医療における看護師の役割や多職種の役割を理解した上で、対象に必要な支援のための連携・協働を考える機会とすることを目的として設定した。				
テ キ ス ト	看護管理(医学書院)				
参 考 図 書					
評 価	筆記試験 100点				
主 関 連 科 目	基礎看護学概論、看護総合 I、地域・在宅看護論				